

**東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科年報**

2019年度



2021年3月

は し が き

保健衛生学研究科は、今年度はじめて看護学のみの研究科となりました。医学が4,000年の歴史があるとすると、看護学は200年しかありません。統計学を駆使して医学とは異なる学問領域として示したのがナイチンゲールで、看護学の開祖といわれている所以です。ヨーロッパでは、主に医療技術職者の短期大学での養成に突き進みました。そんな中、看護学を独自の学問領域として成立させていくために、貢献したのはアメリカでした。医療政策の重点化により、多くの資金を医療の教育に投入しました。そのおかげで、多くの先人たちが、4年制大学の基礎教育、修士・博士課程の設立へと、看護学の着実な発展に対する努力を積み重ねてまいりました。学部としても医学部から看護学部は独立しているのが、世界水準です。幸か不幸か、本学では医学部の中に、看護学専攻が位置づけられています。それゆえに、なおさら、どこが看護の専門性なのかを明確にし得る研究科であり続けたいと思っております。

教員1人あたり年間約60コマの授業を担当し、1/3は臨床実習指導をしながらの研究となります。専任教授9名中2名が欠員という状況の中、産休で2名(約1割)の教員が休職されて、各分野では学部教育を最優先せざるをえない状況になりました。さらに、新型コロナウイルスの流行により、看護学に特徴的な研究手法として重要な、参加観察やインタビューなどがままならず、研究活動にも大きな影響がありました。臨床実習の姿も、リプロダクティブヘルス看護学分野を除き、多くの分野では実習期間の短縮やリモート実習とならざるを得ず、教育にも大きな影響がありました。

卒業生のリアリティショックを予防するために卒後プログラムを用意するように、あるいは、看護教員は現場の支援要請に対応できる体制を整えるようにと、文部科学省や厚生労働省からの要請も来ております。それでもやはり、第一優先は医科歯科に在学中の学生さんと院生さんたちです。ですので、多くの教員にとっては、研究が一番後回しです。医学と同様に看護学だけの研究をする部門を作れば話は別かもしれませんが、たとえ、指定国立大学になっても、この優先順位は変わらないことでしょう。なぜなら、知と癒しの匠として、看護実践を愛する実践家・教育者・研究者仲間を涵養することが、東京医科歯科大学大学院のミッションであり、社会的責務だからです。

2021年3月吉日

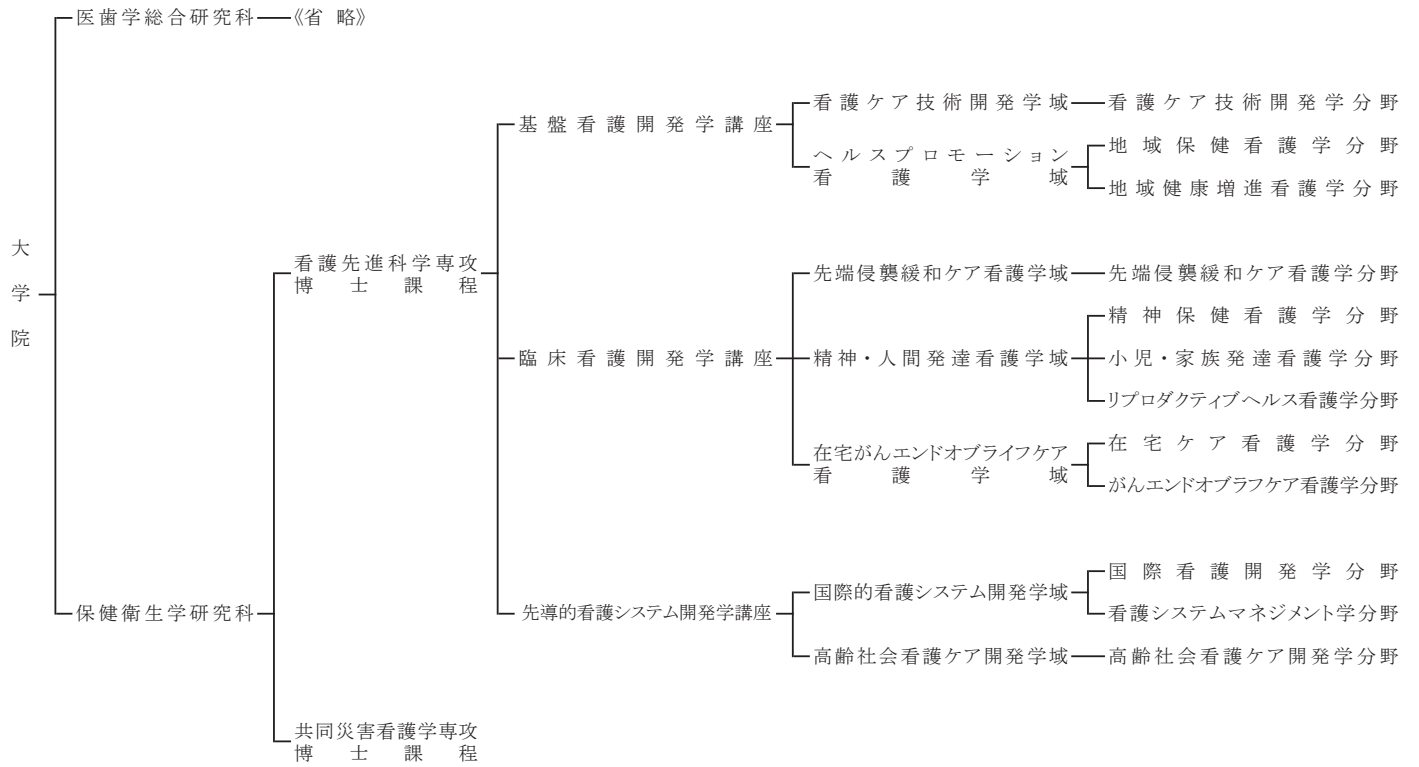
東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科長 大久保功子

目 次

I. 機構図	2
II. 各教育研究分野における教育・研究	
看護先進科学専攻	
基盤看護開発学講座	
看護ケア技術開発学域	
看護ケア技術開発学分野	4
ヘルスプロモーション看護学域	
地域保健看護学分野	9
地域健康増進看護学分野	13
臨床看護開発学講座	
先端侵襲緩和ケア看護学域	
先端侵襲緩和ケア看護学分野	16
精神・人間発達看護学域	
精神保健看護学分野	19
小児・家族発達看護学分野	23
リプロダクティブヘルス看護学分野	27
在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
在宅ケア看護学分野	30
がんエンドオブライフケア看護学分野	33
先導的看護システム開発学講座	
国際的看護システム開発学域	
国際看護開発学分野	36
看護システムマネジメント学分野	39
高齢社会看護ケア開発学域	
高齢社会看護ケア開発学分野	42
共同災害看護学専攻	48
III. 2019年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	54
IV. 2019年度大学院保健衛生学研究科博士（前期・後期）課程学位論文題目一覧表	58
V. 委員会委員名簿	60
VI. 就職状況一覧表（2020年3月卒業・修了者）	62

I. 機 構 図

東京医科歯科大学大学院機構図 (2019年4月1日)



Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

看護ケア技術開発学

Innovation in Fundamental and Scientific Nursing Care

教授 柏木聖代
助教 大河原知嘉子
森岡典子

大学院生
博士後期課程 前田耕助
5年一貫制後期課程 樺島稔

(1) 分野概要

看護ケア技術は看護専門職者が習得した有形・無形の技であり、対象の全人的なアセスメントに基づいて個々に提供されます。看護ケア技術の中には、その有効性がすでに検証され、社会に広く還元されているものもありますが、多くは個人の経験に基づく暗黙知のまま体験と共に伝承されてきており、看護ケアのプロセスの可視化や有効性の検証は進んでいない現状にあります。この現状を改善すべく、ヘルスサービスリサーチ等の学際的研究手法を用いた看護ケアの質に関する実証研究に積極的に取り組んでいます。

そして、これらの研究成果を世界に発信することを通じて、質の高い看護ケアが必要な人に提供される社会の実現を目指しています。

(2) 研究活動

1) ナーシング・ヘルスサービスリサーチ（看護ケアの質の評価）

全国の医療・介護レセプトや国・自治体の調査等の大規模データを活用し、病院・施設・在宅等における看護ケアの質（インプット・プロセス・アウトカム）に関する様々な実証研究に取り組んでいる。

2) 看護師の現任教育の課題と教育力育成

看護実践能力や看護師がもつ教育力の特徴をテキストマイニングにより明らかにするとともに、質的・量的研究を統合した混合研究法により看護実践力や教育力育成のための課題と具体的方法について検討している。

3) 看護技術の科学的検証

日常生活技術の効果を心拍変動、脳血流量等の生理的反応や心理的反応から検証し、その成果をエビデンスとする看護技術の開発に取り組んでいる。

4) 看護実践の可視化・知識ベースの開発

優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論の検討を行っている。

(3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業

研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院では、院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究の進捗に対して、分野の大学院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では基礎看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行った。

1年次には専門科目の基礎看護学Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅰを開講した。基礎看護学Ⅰは看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基礎看護学実習Ⅰは医学部附属病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指した。

2年次は、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱを開講した。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指した。また、基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」、「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いた。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の仕方について指導した。学内での発表にとどまらず、学会発表、学術誌への論文投稿できるよう指導を行なっている。

2) 大学院教育

看護ケア技術開発学特論A・B、および看護ケア技術開発学演習A・B、看護ケア技術開発学特論、特別研究Ⅰ・Ⅱを担当した。

大学院教育では、全ての対象の看護に共通する看護技術の生体への効果、および効果を高める看護方法の開発を目指し、経験的に実施されてきた看護方法の科学的根拠を探求した。また、基礎看護学領域の研究方法論の確立のために、さまざまな研究方法を取り入れ、特に看護学に関連する他分野の研究方法を学び、看護基礎科学としての研究と学際的視点に立った研究を目指した。

(5) 臨床活動および学外活動

研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また、他大学との共同研究や地域の病院等との共同研究や研究支援を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. 丸山幸恵, 柏木聖代, 叶谷由佳. 訪問看護ステーションにおける新卒看護師の採用・採用意向の実態とその関連要因 日本健康医学会雑誌. 2019.01; 27(4); 347-353
2. 大河原知嘉子, 森岡典子, 柏木聖代, 緒方泰子. 東京都の訪問看護事業所における教育・研修の実態と事業所規模との関連—テキストマイニングを用いた混合研究方法による分析— 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2019.06; 42(2); 85-91
3. Noriko Morioka, Suguru Okubo, Yoshie Yumoto, Yasuko Ogata. Training opportunities and the increase in the number of nurses in home-visit nursing agencies in Japan: a panel data analysis. BMC health services research. 2019.06; 19(1); 398
4. Morioka N, Moriwaki M, Tomio J, Kashiwagi M, Fushimi K, Ogata Y. Structure and process of dementia care and patient outcomes after hip surgery in elderly people with dementia: A retrospective observational study in Japan. International journal of nursing studies. 2019.11; 102; 103470

5. Sasaki Miki, Ogata Yasuko, Morioka Noriko, Yumoto Yoshie, Yonekura Yuki. Development and validation of Nurse Managers' Empowering Behavioral Scale for staff nurses NURSING OPEN. 2019.11;
6. 土肥真奈, 杉浦由美子, 杉本健太郎, 柏木聖代, 岡本瞳, 叶谷由佳. 急性期病院看護師を対象とした「高齢者の視点を重視した認知症患者への対応」教育プログラムの効果 日本看護管理学会誌. 2019.12; 23(1); 11-18

[総説]

1. Yoshie Yumoto, W George Kernohan, Noriko Morioka, Yasuko Ogata. International reflections on caring for people with advanced dementia. Public Health Nurs. 2019.03; 36(2); 192-198
2. 森岡 典子. 【病院データは”宝の山”! データ分析に基づく看護マネジメント 日々の数字を根拠に, 現場を改革するために】病院データを用いて, 提供した看護の質を評価する 大腿骨手術を受けた高齢患者のアウトカムと看護提供体制を例に 看護管理. 2019.07; 29(7); 628-634

[講演・口頭発表等]

1. 大河原知嘉子. 訪問看護事業所の規模別にみた教育体制の実態～東京都の訪問看護事業所における教育・研修テーマに着目して～. 第2回混合研究法コロキウム 2019.02.16 東京
2. 木下舞, 我満幸子, 森下幸治, 森岡典子, 湯本淑江, 緒方泰子. 排便管理プロトコル導入による効果—看護ケアの変化と患者アウトカムの改善に焦点をあてて—. 第46回日本集中治療医学会学術集会 2019.03.01 京都
3. 平谷七美, 森岡典子, 佐々木美樹, 湯本淑江, 緒方泰子. 介護保険施設における身体拘束の廃止に関する都道府県の取り組みの実態—インターネット公開資料から—. 第9回 日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京都
4. 木下舞, 森岡典子, 湯本淑江, 緒方泰子. 経腸栄養プロトコル改訂による効果—看護ケアの変化と患者アウトカムの改善に焦点をあてて—. 第9回 日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京都
5. 水落香帆, 柏木聖代, 大河原知嘉子, 戸田あゆみ. 診療報酬改定による急性期病院の退院調整・退院支援への影響に関する文献検討. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京
6. 富士彩貴, 大河原知嘉子, 柏木聖代. 闘病記の内容分析による麻痺を伴う脳卒中患者の主観的身体イメージの経時的変化. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京
7. 菅原玲子, 戸田あゆみ, 大河原知嘉子, 柏木聖代. 病棟看護師の患者に対する口腔ケアの認識・実施・阻害要因の現状に関する文献検討. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京
8. 古代真穂, 湯本淑江, 高田聖果, 森岡典子, 緒方泰子. 認知症高齢者の好みを通じてその人らしさを支える 介護施設でのインタビュー調査から. 日本老年看護学会第24回学術集会 2019.06 仙台
9. 清沢彩恵, 湯本淑江, 高田聖果, 森岡典子, David Edvardsson, ラプレツィオーサ伸子, 緒方泰子. The Person-centered Care Assessment Tool (P-CAT) 日本語版の開発. 日本老年看護学会第24回学術集会 2019.06
10. 井津井康浩, 大河原知嘉子, 北畑富貴子, 岡田英里子, 高橋誠, 田中雄二郎. 臨床研修医は指導医にアクセシビリティを求めている. 第51回日本医学教育学会大会 2019.07.27 京都
11. 森岡典子, 森脇睦子, 緒方泰子. 大腿骨手術症例を対象とした看護配置と患者アウトカムの関連—DPC データを用いた後ろ向きコホート研究—. 第23回日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟
12. Yasuhiro Itsui, Chikako Okawara, Eriko Okada, Makoto Takahashi, Yujiro Tanaka. Analysis of teaching doctor statue required bu junior residents. An International Association for Medical Education 2019 2019.08.27 Austria
13. 前川紗莉, 湯本淑江, 高田聖果, 森岡典子, 緒方泰子. 施設入居認知症高齢者の食事に関連する困難を測る観察式ツールの比較検討. 第57回日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03 新潟
14. 染谷京子, 森岡典子, 山崎育子, 渡辺潤子, 渡辺映子, 永田紀美子, 緒方泰子. 訪問看護同行訪問の経験による病棟看護師と訪問看護師の退院支援実践能力および地域多職種間の連携に与える影響. 第57回日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.04 新潟
15. 前田 耕助, 加藤 智史, 大庭 貴子, 柏木 聖代, 大河原 知嘉子, 習田 明裕. 温湯による足浴がもたらす脳活動への効果. 第39回日本看護科学学会学術集会 2019.11.30 石川
16. 杉本健太郎, 柏木聖代. サービス付き高齢者向け住宅の介護職員が捉える施設内看取りに対する入居者・家族の満足に寄与する要因. 第9回日本在宅看護学会学術集会 2019.12.07 東京
17. 柏木聖代. 訪問看護の質評価の現状と課題. 第9回日本在宅看護学会学術集会 2019.12.08 東京

[その他業績]

1. 【寄稿】 一般社団法人 日本看護系大学系協議会 今月の注目！ 看護教員 「医療ビッグデータを用いた看護の可視化 ～政策につながる看護の見える化を目指して～」(森岡 典子), 2019年08月
日本看護系大学協議会ホームページ
<http://www.janpu.or.jp/staff/>

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学歯学部附属病院看護部看護研究指導 (大黒理恵), 2008年04月01日 - 現在
2. 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師 (大黒理恵), 神奈川県立保健福祉大学, 2012年04月01日 - 現在
3. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員 (大黒理恵), 東京医科歯科大学, 2013年04月01日 - 現在
4. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員 (大河原知嘉子), 東京医科歯科大学, 2014年04月01日 - 現在
5. 東京都訪問看護ステーション協会顧問 (柏木 聖代), 2015年07月01日 - 現在
6. 日本在宅看護学会 理事 (柏木 聖代), 2015年09月 - 現在
7. 日本医療・病院管理学会 事業委員会 (柏木 聖代), 2016年05月 - 現在
8. なるほどテキストマイニング (大河原知嘉子), 医学書院, 看護研究, 2016年12月15日 - 現在
9. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問 (柏木 聖代), 2017年08月 - 現在
10. 日本混合研究法学会 編集委員 (大河原知嘉子), 2017年12月01日 - 現在
11. 日本看護協会 介護施設等に勤務する看護職の働き方検討ワーキンググループ委員 (柏木 聖代), 2018年04月 - 2019年03月
12. 日本混合研究法学会 事務局 (大河原知嘉子), 2018年04月01日 - 2019年03月30日
13. 茨城県訪問看護推進協議会委員 (柏木 聖代), 2018年04月01日 - 2019年03月31日
14. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長 (柏木 聖代), 2018年06月 - 現在
15. 日本医療・病院学会事業委員会委員 (柏木 聖代), 2018年06月06日 - 2020年06月06日
16. 日本在宅看護学会理事 (柏木 聖代), 2018年06月09日 - 2020年
17. 日本看護協会「介護施設等に勤務する看護職の働き方検討ワーキンググループ」委員 (柏木 聖代), 2018年06月22日 - 2019年03月31日
18. 日本看護協会 訪問看護の人材確保に関する検討委員会委員 (柏木 聖代), 2018年07月 - 2019年03月
19. 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 厚生労働省平成30年度老人保健健康増進等事業 (老人保健事業推進費等補助金)「特別養護老人ホーム等における看護体制強化のための調査研究事業」調査研究委員会委員長 (柏木 聖代), 2018年08月 - 2019年03月
20. みずほ情報総研株式会社 厚生労働省平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別委員会 (柏木 聖代), 2018年08月 - 2019年03月
21. 厚生労働省平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査に係る調査検討委員会委員 (柏木 聖代), 2018年08月 - 2019年03月
22. 厚生労働省平成30年度老人保健健康増進等事業 (老人保健事業推進費等補助金)「特別養護老人ホーム等における看護体制強化のための調査研究事業」調査研究委員会委員長 (柏木 聖代), 2018年08月06日 - 2019年03月31日
23. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構学位審査会専門委員 (柏木 聖代), 2018年10月01日 - 2020年03月31日
24. 茨城県看護協会「訪問看護ステーション機能強化事業運営委員会」委員 (柏木 聖代), 2018年12月11日 - 2020年03月31日

25. 筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻 非常勤講師「ヘルスサービスリサーチ演習Ⅱb」(柏木 聖代), 2019年01月17日
26. 横須賀市看護師対象講演「地域で生きる人を支える看護」(柏木 聖代), 2019年01月18日
27. 日本混合研究法学会 理事(大河原知嘉子), 2019年04月01日 - 現在
28. 2019 MMIRA アジア地域会議 / 日本混合研究法学会第5回年次大会 実行委員 実行委員(大河原知嘉子), 静岡文化芸術大学, 2019年05月01日 - 2019年09月30日

地域保健看護学

Community Health Nursing

教授	佐々木 明子
助 教	津田 紫緒
技術補佐員	高橋 知子
	貞廣 彩子
大学院生	金屋 佑子
	板井 麻衣
	田沼 寮子
	巽 夕起
	本田 順子
	塩満 智子
	木村 光佑
	木村 佳菜

(1) 分野概要

地域保健看護活動の専門的な知識・技術を習得し、地域で生活する人々の健康の保持・増進と質の高い生活に寄与するための教育を行っている。また、地域保健看護学の実践を発展させ、その有用性を検証するための開発的な研究を行っている。

さらにフィンランド、スウェーデンなど北欧などをはじめとする外国の教育者・研究者・実践者との交流を通し、国際社会に適応できるアカデミックマナーを習得して、日本国内のみならず、国際的に活躍できる地域保健看護学分野の教育者、研究者、実践者の育成をする教育と研究を行っている。

これらの教育・研究活動を通して、地域の人々を尊重し、人々の健康と質の高い生活に貢献していくことを目指している。

(2) 研究活動

本分野における研究課題は地域保健看護学の実践的な課題解決または改善の方策、新しい課題に対する地域保健看護活動方法の開発と評価および理論構築である。具体的研究内容は以下に示すとおりである。

1. 個人・家族・グループ・地域に対する地域保健看護活動の理論と実践
2. 地域診断、健康教育、介護予防、訪問指導、地区組織活動、産業保健活動の展開方法
3. 地域保健活動の施策化、社会資源の活用と開発
4. 地域保健看護活動の事例分析などによる評価
5. 地域における看護実践やサービス提供システムの国際比較研究などである

主に行った研究テーマは、1. 高齢者の連想法に関する研究、2. 地域看護職者による高齢者全数の予防訪問の実施方法と効果、3. 高齢者に対する介護予防プログラムの評価に関する研究、4. 高齢者の看取りにおける看護職への教育プログラムの開発、5. 医療保険者における保健師の活動に関する研究、6. 産業保健における包括的支援に関する研究等であった。

これらの研究のために国内では九州地方、東北地方の市町村及び高齢者施設等と研究における連携を深めた。また、関東地方の事業場、医療保険者等との研究体制の整備し、調査実施、適宜情報共有の場を設け、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、タンペレ大学にて共同研究の検討を行った。

学部学生は、「1歳6か月児健診で虐待防止に関する継続支援を行う必要があると保健師が判断した母子の特徴

と支援」(2019年度、小野寺春香)、「訪問看護師における自転車での訪問中の事故とヒヤリ・ハットの状況」(2019年度、糸田麻美)、「一人暮らし高齢者の一般介護予防事業への参加を促すための看護職者の活動」(2019年度、河田美幸)というテーマで卒業研究をまとめた。

大学院生は「認知機能の低下予防に着目した集団教育の効果」(2019年度、金屋佑子)、「妊娠を契機として女性の喫煙状況が変化するプロセス」(2019年度、板井麻衣)、「在宅認知症高齢者に対する訪問看護師のケア行動と利用者のアウトカムの関連」(2019年度、田沼寮子)、「思春期の子を持つ親の養育に関する主観的幸福感と負担感に関する要因」(2019年度、巽夕起)、「対人支援を行う行政保健師の感情労働の特徴に関する研究」(2019年度、本田順子)、「労働者を対象とした運動習慣とロコモティブシンドローム予防のための運動プログラムの検証」(2019年度、塩満智子)、「地域で生活する精神障害者の被害に関する研究」(2019年度、木村佳菜)、「訪問看護師がかかわる慢性疾患の在宅高齢者とその家族に対するアドバンストケアプランニングの実践と患者・家族の満足度に関する研究」(2019年度、木村光佑)というテーマについて研究を行っている。大学院生の研究を実施するにあたり、関東地方、東海地方、関西地方等の市町村及び地域包括支援センターの協力を得た。

(3) 教育活動

1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させながら、地域保健看護活動の理論と実践と研究の統合を目指して教育をしている。

2019年度の学部学生の実習は、保健師コース(選択制)の学生が対象となり、地域保健として東京都特別区の文京区(保健サービスセンター本郷支所)、足立区(江北保健センター、竹の塚保健センター)、墨田区(向島保健センター、本所保健センター)、台東区(台東保健所)、葛飾区(金町保健センター)、北区(北区保健所・滝野川健康支援センター)の6区(9か所)で行った。東京都特別区以外の地域保健では、千葉県船橋市保健所、岩手県奥州市役所、神奈川県秦野市保健福祉センター、埼玉県越谷市保健所、静岡県三島市保健センターで実習を行った。学校保健としては筑波大学附属小学校、お茶の水女子大学附属小学校、また、産業保健として株式会社 JAL グランドサービス、キャノン電子株式会社、日本航空株式会社、横河レンタ・リース株式会社、株式会社ニコンで実習を実施した。

2) 大学院教育

主に地域保健学特論 A、地域保健看護学演習 A、地域保健看護学特論、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱを担当している。

行政機関や事業所における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように教育を行った。さらに、大学院生が国際的な教育、研究、実践活動に参画する機会を提供した。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では保健所、市町村保健センターなど行政機関や事業場などの地域保健看護活動について、制度、法的根拠を理解すると共に、地域の保健看護ニーズのアセスメント、計画、実施、評価と保健看護活動の具体的な展開方法について総合的に学ぶことを目指して教育を行っている。人々の健康を保持増進する支援を行うために、人々の生活とそれを取り巻く社会環境を含めて捉える視点を養っている。

2) 大学院教育

(1) 教育研究領域は行政機関や事業場における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように指導する。学内における講義・演習・実習、学内外における研究会への参加、学会発表、フィールドワークをとおして地域保健看護学分野における高い実践力と教育・相談・研究能力を修得する。各自の研究課題は地域保健看護学の実践場面に参加して実用可能性を含めた検討を行い、独創的かつ有用な成果を得られるものとなるよう指導する。大学院生は、各自の関心にそって研究テーマを選び、新たな地域保健看護技術や地域保健看護活動の展開方法・地域保健看護システムの開発と地域保健看護学の理論の構築を含めて、研究を進めている。

(2) 大学院保健衛生学研究科の提携大学であるフィンランドのセイナヨキ応用科学大学の他、教員が研究交流を行っているスウェーデン等の大学・実践機関等との連携により、滞在型の研修・研究を行う機会を設けている。

(3) 国内外の地域保健医療福祉に関連する専門職者との共同プロジェクト研究のうち、学生の関心によりテーマを選択し、研究・実践能力を修得して、独創的な研究を行う機会を提供している。

(4) 国内外の学会、外国人研究者の招聘セミナーや国際共同研究の参加、国内外学術雑誌への発表などの積極的な活動を学生に奨励し、指導し、発表を行っている。

(5) 国外の大学・実践機関の研究者、専門識者との積極的な交流を大学院生に奨励、指導している。

(5) 研究業績

[原著]

1. 板井麻衣, 佐々木明子, 津田紫緒. 産後の女性を対象とした再喫煙防止プログラムに関する文献レビュー お茶の水看護学雑誌. 2019; 13(1/2); 1-11
2. Mai Itai, Akiko Sasaki, Makiko Mori, Shio Tsuda and Ayumi Matsumoto-Murakoso. The Changing Process of Women's Smoking Status Triggered by Pregnancy Int J Environ Res Public Health. 2019; 12;16(22); 1819-1821
3. 本田順子, 佐々木明子, 津田紫緒. 在宅要介護高齢者の介護者における介護対処行動と不適切処遇に関する研究 高齢者虐待防止研究. 2019.03; 15(1); 90-100
4. 巽夕起. 要介護高齢者の下肢浮腫軽減を目的とした自転車こぎ運動効果の検証 大和大学研究紀要 (保健医療学部編). 2019.03; 5; 17-21
5. 塩満 智子, 鶴田 来美, 帖佐 悦男. 姿勢重心計測機器を用いた健康づくり支援の検討 日本整形外科スポーツ医学会雑誌. 2019.03; 39(1); 115-119
6. Tsuruta K, Shiomitsu T, Hombu A, Fujii Y. Relationship between social capital and happiness in a Japanese community: A cross-sectional study. Nursing & health sciences. 2019.06; 21(2); 245-252
7. Yoshinaga S, Shiomitsu T, Kamohara M, Fujii Y, Chosa E, Tsuruta K. Lifestyle-related signs of locomotive syndrome in the general Japanese population: A cross-sectional study. Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association. 2019.11; 24(6); 1105-1109

[書籍等出版物]

1. 総監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子, 監修) 山崎恭子, 監修協力) 山岸貴子, 片岡ゆみ, 巽夕起, 金屋祐子. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第3巻 産業保健. 2019.07
2. 総監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第4巻 学校保健. 丸善出版, 2019.07
3. 総監修・監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子, 監修協力) 片岡ゆみ, 津田紫緒, 田沼寮子, 金屋祐子. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第1巻 地域ケアシステム. 丸善出版, 2019.12
4. 総監修・監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子 他. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第2巻 公衆衛生看護管理. 丸善出版, 2019.12

[総説]

1. 板井麻衣, 佐々木明子, 津田紫緒. 産後の女性を対象とした再喫煙防止プログラムに関する文献レビュー. お茶の水看護学雑誌. 2019; 13(1/2); 1-11
2. 板井麻衣, 佐々木明子, 津田紫緒. 乳幼児を養育する母親とその周囲の喫煙に関する実態 日本禁煙学会雑誌. 2019; 14(4); 100-106
3. 村社歩美, 板井麻衣, 佐々木明子. 小児科診療所を受診した感じの母親の喫煙率 日本小児科学会雑誌. 2019; 123(12); 1819-1821

[講演・口頭発表等]

1. 巽夕起. 医療系の進路を希望する高校生における保健師の認知度 -テキストマイニングによる分析-. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 2019.01
2. 前川寿子, 巽夕起. A市の体操教室に参加した住民のロコモティブシンドロームの現状. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 2019.01
3. 塩満智子, 田邊綾子, 蒲原真澄, 吉永砂織, 鶴田来美, 内海沙織, 藤井良宜. 労働者の運動習慣と転倒及びロコモティブシンドロームの実態. 第92回日本産業衛生学会 2019.05.24
4. 金屋祐子, 片岡ゆみ. NEATに着目した運動促進キャンペーンの導入による効果. 2019.05.24 名古屋

5. 佐々木明子, 森田久美子, 金屋佑子, 照沼正子, 野村政子, 中野正孝, 中村洋一, 巽夕起, 本田順子, 北東美枝. 地域保健活動における家庭訪問記録電子化の効果と課題. 第24回日本在宅ケア学会学術集会 2019.07
6. 金屋佑子. 実習を通して学生が捉えた産業看護職の役割と意義. 2019.08.19 横浜
7. 本田順子, 佐々木明子, 津田紫緒, 森田久美子. 行政保健師が感情労働した場面の特徴について. 第22回日本地域看護学会学術集会 2019.08.29 横浜
8. 安達和美, 田村康子, 巽夕起, 宮本純子, 相羽利昭, 溝畑智子, 山田英子. 災害を見据えた外国人旅行者への看護支援モデルの構築. 日本災害看護学会第21回年次大会 2019.09
9. 田村康子, 巽夕起, 安達和美, 相羽利昭, 山田英子, 宮本純子, 溝畑智子. 災害と外国人旅行者～次の災害を見据え、外国人旅行者への看護支援として何ができるか考える～. 日本災害看護学会第21回年次大会 2019.09
10. 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子, 北東美枝, 中野正孝, 野村政子, 金屋佑子, 板井麻衣, 巽夕起, 本田順子. 地域保健活動における家庭訪問結果の活用状況. 第78回日本公衆衛生学会総会 2019.10
11. 原田静香, 山田明子, 中村侑加, 仲里良子, 板井麻衣, 岸本麻理, 櫻井しのぶ. 子育てケアプラン作成に関する効果測定 (第5報). 2019.10 高知
12. 永嶺仁美, 森田久美子, 小林美奈子, 青木利江子, 山本晴美, 丸山佳代, 大竹文, 保木みか, 佐々木明子. 対象の性別にみた多世代交流の実施目的と交流内容. 日本世代間交流学会第10回全国大会 2019.10.06 東京
13. 小野ミツ, 明石智子, 佐々木明子, 黒木司. 認知症の人を最期まで支えた介護家族の要因. 2019.10.24 高知
14. 大杉成美, 佐々木明子, 津田紫緒. 職域での認知症サポーター養成の意義と行政保健師の役割. 第78回日本公衆衛生学会 2019.10.25 高知

[社会貢献活動]

1. 日本高齢者虐待防止学会評議員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009年07月01日 - 現在
2. 日本在宅ケア学会 査読委員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2012年04月01日 - 現在
3. 日本在宅ケア研究所倫理審査委員会委員 佐々木明子, 2013年04月01日 - 現在
4. 日本在宅ケア学会評議員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2015年04月01日 - 現在
5. 日本公衆衛生学会代議員 佐々木明子, 日本公衆衛生学会, 2017年07月01日 - 現在
6. 日本在宅ケア教育研究センター理事 佐々木明子, 2019年05月 - 現在

地域健康増進看護学

Community Health Promotion Nursing

森田	久美子	(准教授)
山本	晴美	(大学院生)
永嶺	仁美	(大学院生)
呂	暁衛	(大学院生)
三村	祐美子	(大学院生)
丸山	佳代	(大学院生)
保木	みか	(大学院生)
大竹	文	(大学院生)
角田	紘子	(大学院生)
庄司	花円	(大学院生)
三橋	佳代子	(大学院生)
中野	愛子	(研究生)

(1) 分野概要

本分野における教育・研究の内容は、対象の年齢も活動の場も非常に多岐にわたります。幼少期から良い生活習慣を習得し、中高年期での高い健康レベルとQOLを維持できるようにするためにはどのような対策が必要か、それを保健医療福祉制度や公衆衛生、産業保健といった観点から学んでいきます。

健康教育では、正しい情報、知識を提供することも大切ですが、それ以上に健康教育を受けた対象者が行動変容を起こし、病気の予防・改善につながることを最も重要になります。そのために、どのような健康教育が効果的なのか、企画・実施・評価それぞれの段階で検証していくことを目標としています。

研究は、主として高齢者と子ども達との世代間交流や、地域・在宅で暮らす高齢者の介護予防、産業保健分野での生活習慣病予防等に関する調査を行っています。

(2) 研究活動

最近の研究テーマは、「世代間交流プログラムの効果」です。高齢者と若い世代の交流が、以前に比べて非常に少なくなっている現在、高齢者と子ども達が交流を行うことにより、双方にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的に調査を実施しています。また、共同研究として「予防訪問の有用性と効果的運用方法」「地域保健活動における家庭訪問の成果を評価できる電子訪問記録の開発」に関する調査の一部を分担して行っています。

(3) 教育活動

学部教育では、看護学専攻の専門共通分野に含まれる産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習を担当しています。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出題される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっています。本分野を選択した学生の研究テーマは、「女子大学生のボディイメージ、食行動、自尊感情の関連性」「大学生の食生活の現状と間食に関する意識」「子宮頸がん予防に関する意識調査」「臓器移植に関する紙面上の情報提供が与える認知度向上への効果」などさまざまです。研究については、出来る限り学生の主体性を尊重し、興味関心のあるテーマで研究が進められるようにサポートしています。

大学院教育では、健康寿命の延伸を目指して、日常生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、そ

の基本的考え方と研究法を修得する、また健康教育技法について、国内外の文献を吟味し、企画から評価までの一連の流れを講義と討議により修得するということを目標としています。地域健康増進看護学特論・演習では、よりよい健康を目指して、人々が行動変容するために必要な支援は何かを考え、健康教育の企画から評価までの一連の流れを演習する、また、健康教育の理論や技術を学び、さまざまな対象、地域にあわせた健康教育を実践できる能力・研究方法を演習により修得することを目標としています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Hitomi Nagamine, Xiaowei Lyu, Kayo Maruyama, Kumiko Morita. Implementation and evaluation of a primary diabetes prevention programme for young adult employees in Japan: A non - randomized controlled trial Nursing Open. 2019;
2. 呂曉衛, 森田久美子, 山本晴美, 永嶺仁美. 中国都市部における高齢者と小学生の関係性 —同居経験の有無による比較— 日本世代間交流学会誌. 2019.10; 9(1); 23-30

[書籍等出版物]

1. 総監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子, 監修) 山崎恭子, 監修協力) 山岸貴子, 片岡ゆみ, 巽夕起, 金屋祐子. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第3巻 産業保健. 2019.07
2. 総監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第4巻 学校保健. 丸善出版, 2019.07
3. 総監修・監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子, 監修協力) 片岡ゆみ, 津田紫緒, 田沼寮子, 金屋祐子. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第1巻 地域ケアシステム. 丸善出版, 2019.12
4. 総監修・監修) 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子 他. 新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第2巻 公衆衛生看護管理. 丸善出版, 2019.12

[講演・口頭発表等]

1. Mika Hoki, Nagamine Hitomi, Kayo Maruyama, Kumiko Morita. Literature review on chilrearing support from pregnancy to the childrearing period. 22nd EAFONS 2019 2019.01.17 Singapore
2. Harumi Yamamoto, Kumiko Morita, Izumi Sezai. The literature review of utilizatio and effectiveness of motivational interviewing in engaging in advance care planning. 22nd EAFONS 2019 2019.01.17 Singapore
3. 佐々木明子, 森田久美子, 金屋祐子, 照沼正子, 野村正子, 中野正孝, 中村洋一, 巽夕起, 本田順子, 北東美枝. 地域保健活動における家庭訪問記録の電子化の効果と課題. 第24回日本在宅ケア学会学術集会 2019.07
4. 本田順子, 佐々木明子, 津田紫緒, 森田久美子. 行政保健師が感情労働した場面の特徴. 第22回日本地域看護学会 2019.08
5. 永嶺仁美, 森田久美子, 小林美奈子, 青木利江子, 山本晴美, 丸山佳代, 大竹文, 保木みか, 佐々木明子. 対象の特性別にみた多世代交流の実施目的と交流内容. 日本世代間交流学会第10回全国大会 2019.10.06 東京
6. 佐々木明子, 照沼正子, 森田久美子, 北東美枝, 中野正孝, 野村政子, 金屋祐子, 板井麻衣, 巽夕起, 本田順子. 地域保健活動における家庭訪問結果の活用状況. 第78回日本公衆衛生学会総会 2019.10.25 高知
7. 小林美奈子, 木村友昭, 森田久美子. ソーシャル・キャピタル等の諸要因が地域在住高齢者のスピリチュアリティに与える影響. 日本公衆衛生学会 2019.10.25
8. 小林美奈子, 森田久美子. スピリチュアリティを導入した健康増進プログラムの地域在住高齢者への効果. 第39回日本看護科学学会学術集会 2019.12.01 金沢
9. 丸山佳代, 森田久美子. 小学生の生活習慣と保護者の生活習慣・健康に関する意識との関連. 日本学校保健学会第66回学術大会 2019.12.01 東京

[社会貢献活動]

1. 日本在宅ケア学会 査読委員, 2010年 - 現在
2. お茶の水看護学研究会 編集委員, 2010年04月 - 現在
3. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 2010年04月 - 現在
4. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 2012年11月 - 現在
5. 日本看護科学学会 査読委員, 2015年 - 現在
6. 日本世代間交流学会 編集委員, 2015年01月 - 現在
7. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 2015年10月 - 現在
8. 日本地域看護学会 査読委員, 2016年 - 現在

先端侵襲緩和ケア看護学

Critical and Invasive-Palliative Care Nursing

教授 田中 真琴

准教授 川上 明希

助教 川本 祐子

大学院生（博士後期課程）野口 綾子（左記1名は2019年3月31日まで）

石塚 紀美

（5年一貫制博士課程）松井 憲子、畑中 佳子、藤田 和寿、染谷 彰

川島 徹治、岩下 絵梨香、大脇 那奈、小坂 志保

蘆田 薫、八鍬 類子

(1) 分野概要

先端侵襲緩和ケア看護学では、重篤期から回復期の患者や家族のケア、さらには慢性期のセルフマネジメント支援や緩和ケアといった多方面の研究課題に取り組んでいる。専門的看護支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元による看護の質向上、看護学の一層の充実をめざしている。教育においては、学部教育では成人看護学を担当し、大学院教育では、日本看護系大学協議会より認定を受けた「クリティカルケア看護高度実践看護師教育課程」として、臨床に貢献できる急性・重症患者看護専門看護師の教育にも尽力している。

(2) 研究活動

本分野では、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいる。

【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族のQOL向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいる。侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功・回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っている。

【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】

慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネジメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいる。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っている。

(3) 教育活動

1) 学部教育

本教育研究分野は、学部教育では成人看護学を担当している。

カリキュラムの構成は、2年次での成人看護学Ⅰ（概論2単位）、成人看護学Ⅱ（各論2単位）、3年次前期の成人看護学Ⅲ（実践論1単位）と成人看護学演習（1単位）、そして集大成としての成人看護学実習Ⅰ（3単位）という、学生の学習進度と体験に応じた組み立てとなっている。

2年次では、講義を中心として成人看護学Ⅰ、Ⅱで成人期にある人々の理解と成人看護学の考え方、成人看護学としての看護のあり方の基本を学ぶ。

3年次前期では、成人看護学演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合と、成人看護学Ⅲでは各専門領域（専門看護師、遺伝看護、HIV感染者ケア等）で活躍する第一人者による成人看護学の最新の実践論を学習する。3年次後期は臨地実習期間であり、本学医学部附属病院で3週間の領域別実習を行っている。実習は医学部附属病院のほぼ全病棟にわたり、各病棟の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとにすすめている。実習最終日に

は4病棟合同の「まとめの会」を開催し、学生の学びを共有する場としている。まとめの会やカンファレンスは学生主体での運営を重んじ、責任感、主体性、協調性も涵養している。実習開始前の個々の学生の状況把握や、数回の個人面接も含めたきめ細かな指導で、学生の学習の質向上をめざしている。

4年次での卒業論文指導では、講義、ゼミ形式、個別指導と、多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。また卒業論文のゼミ生を中心に、就職相談・推薦等キャリア形成のための指導を行っている。

2) 大学院教育

看護実践に基づいた研究課題の発掘や方法論の開発をできる研究能力を養い、研究者・教育者としての資質を磨くことに重点を置き教育を行っている。加えて、高度実践者としてのクリティカルケア（急性・重症患者）看護専門看護師（CNS）の教育を行っている。専門看護師実習は、実習提携病院ならびに本分野のCNS課程履修の修了生やクリティカルケア看護専門看護師が勤務する施設の協力を得て、クリティカルケア看護専門看護師育成のための先駆的教育に取り組んでいる。

研究論文作成指導では、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、研究論文としての意義と研究計画、研究実施状況の意見交換と指導の場としての「論文ゼミ」と、院生一人一人への個別指導との組み合わせで教育の充実を図っている。取り組んでいる論文テーマは、クリティカルケア・急性期・周手術期での看護ケアの洗練と質向上、先端・高度医療における看護の役割、新たな治療を受ける患者の療養生活支援、急性期医療からの移行期、慢性期における看護の役割など多岐にわたる。

(4) 研究業績

[原著]

1. Hirofumi Go, Makoto Tanaka, Noriko Yamamoto-Mitani, Miho Suzuki, Aki Kawakami, Naohiko Masaki, Megumi Shimada. Medication Adherence Among Patients With Chronic Hepatitis Receiving Antiviral Treatment. *Gastroenterol Nurs.* 2019.03; 42(2); 140-149
2. Saki Okugawa, Hideyuki Shimizu, Kentaro Hayashida, Yuko Kawamoto, Makoto Tanaka. Changes in the nutritional and activity status of elderly patients within 6 months of transcatheter aortic valve replacement: a mixed methods approach. *Japan Journal of Nursing Science.* . 2019.12;

[書籍等出版物]

1. 川本祐子（分担執筆）、井上智子 編. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第3版. 医学書院, 2019.11

[総説]

1. 谷本茂明, 佐藤周行, 川本祐子, 秋葉淳哉. 医療情報と情報セキュリティマネジメント オペレーションズ・リサーチ. 2019.07; 64(7); 406-412

[講演・口頭発表等]

1. Inoue T, Tanaka M, Kawakami A. Nursing practices related to family conferences for terminal patients in critical care and their families.. The 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2019.01.17 Furama RiverFront Hotel, Singapore
2. Yuko Kawamoto, Haruhiko Furusawa, Satoshi Hanzawa, Yumiko Yatomi, Yasunari Miyazaki, Makoto Tanaka. Factors affecting antigen-avoidance behavior of patients with hypersensitivity pneumonitis: qualitative research. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars 2019.01.17 Singapore
3. Makoto Tanaka, Yuri Matsushita. Self-efficacy and related factors in patients with inflammatory bowel disease: A literature review. The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions 2019.02.13 Bangkok, Thailand
4. 川島徹治, 田中真琴, 川上明希, 村中沙織. 集中治療領域での終末期患者とその家族に対するインフォームド・コンセントにおける看護師の実践. 第15回日本クリティカルケア看護学会学術集会 2019.06.16 大分県別府, 別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza

[受賞]

1. 中谷医工計測技術振興財団調査研究助成金, 公益財団法人中谷医工計測技術振興財団, 2019年02月

[社会貢献活動]

1. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010年04月01日 - 現在
2. CKD・腎移植に関する勉強会, 2011年04月01日 - 現在
3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012年04月01日 - 現在
4. 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 広報委員会 (川本祐子), 2013年08月21日 - 2019年12月31日
5. 日本看護科学学会 査読委員, 2015年10月01日 - 現在
6. 日本看護系大学協議会 国際交流推進委員会委員, 2016年07月08日 - 現在
7. 一般社団法人日本看護系大学協議会 広報・出版委員会委員 (川本祐子), 2017年03月14日 - 現在
8. 日本看護科学学会 理事 総務委員長, 2017年06月18日 - 現在

精神保健看護学

Mental Health and Psychiatric Nursing

教授	選考中
准教授	高野 歩
	美濃 由紀子 (休職中)
講師	遠藤 貴子 (2019年4月～2019年7月)
特任助教	栗林 一人 (2019年10月～)
技術補佐員	亀和田 陽子 (2019年7月～2019年10月)
事務補佐員	野中 順子
大学院生 (博士後期)	松浦 佳代
5年一貫博士課程	高濱 圭子
	富川 明子
	平岩 千明
	及川 江利奈

(1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援への必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

また、当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。

本研究分野の主な研究テーマは、精神疾患患者とその家族のケア、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援、精神疾患患者の退院および地域生活促進、地域・学校保健・産業保健における精神保健問題の理解と支援、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上、司法精神医学・看護学に関する研究等である。

(2) 研究活動

1. 精神疾患患者とその家族への支援
2. 思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援
3. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
4. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
5. 司法精神医学・看護学に関する研究

(3) 教育活動

当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。2014年に認定の更新を行い、承認された。

(4) 教育方針

1) 学部教育

1. 看護心理学では、心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用する。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして、健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクゼーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。
2. 精神看護学では、精神的な機能の障害を精神医学的な疾患論、病理学、診断学に基づいて評価する方法や、薬物療法、心理社会的治療、精神科リハビリテーションなどによって回復をもたらす方法について学ぶ。また、精神医療システムの中で看護職が保健医療チームの一員として、それらの知識や方法を看護的援助に生かしながら、どのような役割をとっていく必要があるかについて考察を深める。
3. 地域精神看護学では、精神保健福祉をめぐる社会状況と制度やシステムについての理解を踏まえて、看護師が地域の社会資源を活用しながら、精神障害者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて担うべき役割について学ぶ。
4. 精神看護学演習では、精神疾患患者の疾患や生活障害との関連、精神医療の歴史や治療環境の成り立ちが精神疾患患者の処遇に及ぼす影響についての理解を深め、精神疾患患者への心理・社会・生物学的な諸局面を視野に入れた全人的理解の深化を目指す。さらには、援助的な対人関係技術の向上を通じて、精神疾患患者の回復、成長、自立を支援するために必要な方法と、その理論的な背景について学ぶ。
5. 精神看護学実習は、精神科病棟及び地域における精神科通所施設で行う。カンファレンスでは「看護場面の再構成法」のワークシートを活用し、入院患者との対人関係を振り返って自己理解を深めることを通じて精神看護の実践能力を高めると共に、地域に暮らす精神障害者の生活実態に沿った地域支援について学ぶことを目標とする。入院患者や通所者との対人関係を体験する中で、セルフケア理論に基づいた看護過程を展開し、対象者の抱えている問題の明確化を図りながら援助関係を築いていく過程を重視している。

2) 大学院教育

1. 精神保健看護学特論 A-1 では、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組みと共に、様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について習得する。具体的には、精神医学的診断法や心理測定法、並びに精神医療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法の蓄積に学びながら、看護学独自の視点に基づく評価と援助の方法について修得する。
2. 精神保健看護学特論 A-2 では、精神的な問題をもつ人々とその家族に適切な看護的援助を提供する上で必要な内省技法、面接技法、グループワーク技法の理論的背景を学ぶと共に、精神保健看護学の分野における研究倫理、参加観察と質的研究の方法論について理解を深め、臨床家の問題意識に沿って研究課題を発見して明確化できる能力、ならびに研究成果を臨床の場で実践できる能力を修得する。
3. 精神保健看護学演習 A では、対人関係論、集団力動論の視点と方法論に則った看護事例検討会への参加とその振り返りを通じて、事例分析や看護評価の方法とその理論的背景、並びにグループによるスーパービジョン、コンサルテーションの実際を体験すると共に、個別のスーパービジョン、コンサルテーション、相談面接の理論と方法について習得する。
4. 精神保健看護学特論 B-1 では、精神保健福祉をめぐる社会状況と関連法規、社会制度の変遷について理解を深めると共に、看護師の視点から、現状の保健医療福祉システムが抱えている課題の克服に向けて、既存の制度や社会資源を活用し、患者の自助活動と連携していくための方法論や、制度改革の必要性と方向性について学ぶ。

5. 精神保健看護学特論 B-2 では、司法精神医療、司法精神医学、司法精神看護学の現状と課題、並びに理論的、歴史的背景の検討を中心に、暴力等による自傷他害の行為の見られる精神疾患患者の回復と自立の促進に向けた早期介入や入院時の個別ケアと併せて、心理教育、認知行動療法、芸術療法等の集団療法や、患者の自助活動を重視する治療共同体的な実践の方法論について習得する。
6. 精神保健看護学演習 B では、精神疾患患者の病状や心理社会的状況に応じた看護契約、権利擁護、アメニティ向上のための方法論、並びに急性期・回復期の看護、リハビリテーション看護、家族看護、在宅看護ならびにそれらの活動の充実に向けた看護管理やチーム医療を支える理論と方法論について、講義と討議によって習得する。
7. 精神保健看護学実習では、急性期、慢性期、回復期等各期における様々な病態の精神疾患患者への看護的援助を実施した経験を核とし、それをあらゆる角度から分析・検討することを通じて、精神的健康に問題を持つあらゆる人々に対して専門性の高い看護的援助、及び援助者への援助を実践できる能力を身につけることを重視する。
8. 精神保健看護学特論では、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得するとともに、治療的援助技法を活用した精神的な問題を持つ人とその家族への支援の実践を基盤に、精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Morita Y, Miyamoto Y, Takano A, Kawakami N, Coulombe S. Reliability and validity of the Japanese version of the Mental Health Self-management Questionnaire among people with mental illness living in the community. *BMC psychology*. 2019.05; 7(1); 30
2. Kotajima-Murakami H*, Takano A*, Ogai Y, Tsukamoto S, Murakami M, Funada D, Tanibuchi Y, Tachimori H, Maruo K, Sasaki T, Matsumoto T, Ikeda K *equal contribution. Study of effects of ifenprodil in patients with methamphetamine dependence: Protocol for an exploratory, randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *Neuropsychopharmacology reports*. 2019.06; 39(2); 90-99
3. Takano A, Ono S, Yamana H, Matsui H, Matsumoto T, Yasunaga H, Kawakami N. Factors associated with long-term prescription of benzodiazepine: a retrospective cohort study using a health insurance database in Japan. *BMJ open*. 2019.07; 9(7); e029641
4. Kuribayashi K, Imamura K, Watanabe K, Miyamoto Y, Takano A, Sawada U, Sasaki N, Suga M, Sugino A, Hidaka Y, Iida M, Sudo M, Tokita M, Kawakami N. Effects of an internet-based cognitive behavioral therapy (iCBT) intervention on improving depressive symptoms and work-related outcomes among nurses in Japan: a protocol for a randomized controlled trial. *BMC psychiatry*. 2019.08; 19(1); 245
5. 高野 歩. ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬の長期処方に関する実態調査 医療と社会. 2019.08; 29(2); 321

[書籍等出版物]

1. 高野歩. 「助けて」が言えない SOS を出さない人に支援者は何ができるか. 日本評論社, 2019.07 (ISBN : 978-4535563797)
2. 高野歩. 認知行動療法辞典. 丸善出版, 2019.08 (ISBN : 978-4621303825)

[総説]

1. 松本俊彦, 高野歩, 熊倉陽介, 宇佐美貴士, 伴恵理子, 窪田和巳. 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート 調査システムの開発: 「Voice Bridges Project」 更生保護学研究. 2019.06; 14; 3-18

[講演・口頭発表等]

1. 高野歩. 保護観察の対象となった薬物依存者におけるコホート調査: 1年後の転帰. 第29回日本精神保健看護学会学術集会 2019.06.09 名古屋

2. 石井慎一郎, 田村敦子, 富川明子他. 看護教育における感情的エンゲージメントに関する文献検討. 日本感情心理学会 2019.06.29
3. Tomohiro Shirasaka, Miyuki Tsuneta, Shogo Kanamori, Toshiaki Baba, Kazutaka Nomura, Ayumi Takano, Takayuki Harada. Introduction of international cooperation activities from Japan International Cooperation Agency (JICA) : Project for Introducing Evidence-based Relapse Prevention Program to Drug Dependence Treatment and Rehabilitation Centers in the Philippines. Methamphetamine Epidemic in the Philippines and Countermeasures to Overcome Problems. 18th Annual International Mental Health Conference 2019.07.25
4. 高野歩. ハームリダクションの現状と応用 (国際的視点から). 第 54 回アルコール・アディクション医学学術総会 2019.10.04 札幌
5. Toshihiko MATSUMOTO, Hiroko KOTAJIMA-MURAKAMI, Ayumi TAKANO, Yasukazu OGAI, Daisuke FUNADA, Yuko TANIBUCHI, Hisateru TACHIMORI, Kazushi MARUO, Kazutaka IKEDA. Study of Ifenprodil effects on patients with methamphetamine dependence : study protocol for an exploratory randomized double-blind placebo-controlled trial. 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology 2019.11.13 Fukuoka
6. 平岩千明. 精神症状が急性増悪した人の家族の体験に関する文献検討. 日本看護科学学会学術集会 2019.11.30 金沢

[社会貢献活動]

1. 企画委員, アルコール関連問題予防研究会, 2011 年 04 月 - 現在
2. フィリピン「科学的根拠に基づく薬物依存症治療プログラム導入プロジェクト」国内支援委員会研究部会メンバー, JICA, 2017 年 05 月 - 現在
3. 査読委員, 日本精神保健看護学会, 2017 年 07 月 - 現在
4. 客員研究員, 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部, 2018 年 04 月 - 現在
5. 第 18 回日本アディクション看護学会学術集会 企画委員, 日本アディクション看護学会, 2018 年 09 月 - 2019 年 06 月
6. Membership Committee, International Society for Biomedical Research on Alcoholism, 2018 年 10 月 - 現在
7. 査読委員, 日本アディクション看護学会, 2018 年 12 月 - 現在
8. 普及アドバイザー, A/CRA/FT ASIA, 2019 年 01 月 - 現在
9. 日本におけるハームリダクションの可能性と課題, A/CRA/FT ASIA, ハームリダクションの可能性と課題 ~ CRA (Community Reinforcement Approach) との相互作用の視点から~, 2019 年 04 月 14 日
10. 社会貢献委員, 日本精神保健看護学会, 2019 年 09 月 - 現在
11. 和文誌専任査読委員, 日本看護科学学会, 2019 年 10 月 - 現在
12. ハームリダクションの理念と実践, アルコール関連問題予防研究会, 神奈川県民センター, 2019 年 12 月 19 日

小児・家族発達看護学

Child and Family Nursing

准教授	岡光	基子
助教	矢郷	哲志
技術補佐員	村松	三智
非常勤講師	幸本	敬子
大学院生	野村	智実
大学院生	鈴木	香代子
大学院生	勝本	祥子
研究生	来生	奈巳子
研究生	岡林	優喜子

(1) 分野概要

小児看護学を専門とする教育分野として発足し、平成20年度からは、乳幼児精神保健に関する知識とスキルを持つ小児専門看護師（CNS）養成カリキュラムの運用を始め、小児看護の高度専門家の養成とその領域における研究を遂行している。研究においては、乳幼児とその家族に対する早期介入支援を主要なテーマとして取り組み、研究成果を看護実践に活用し、大学病院や小児科クリニックでの育児支援外来の運営にも関わっている。また、日本語版 NCAST やファミリーパートナーシップモデルに基づく妊娠期からの育児支援など、専門職向けの講習会を開催している。

(2) 研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害など、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップに基づく育児支援プログラム導入による介入効果の検証
- 5) 生後早期における父子の関係性支援介入
- 6) 周産期における母児エピゲノムの体系的解析
- 7) 幼児の社会—情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 8) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 9) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討
- 10) 子どもの問題行動と親のペアレンティングに焦点を当てたピア主導型育児支援プログラムの開発などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、6)においては、東京医科歯科大学医学部附属病院周産女性診療科、発生発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

(3) 教育活動

1) 学部教育

小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、卒業論文Ⅱ、看護の統合と実践（1コマ）を担当

している。卒業論文Ⅱにおいては、5名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを指導した。

2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論 A1・B、小児家族発達看護学演習 A1・B、共通科目である家族看護学特論を担当した。

(4) 臨床活動および学外活動

乳幼児精神保健を看護実践に活用し、育児に不安や困難を抱える親とその子どもを支援することを目的として、東京医科歯科大学医学部附属病院小児科外来・病棟・NICU 及び大川こども&内科クリニックにおける育児支援外来の運営に関わっている。また、1型糖尿病の患者・家族会(東京わかまつ会)の運営にも携わっている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Katsumoto S, Maru M, Yonemoto T, Maeda R, Ae K, Matsumoto S. Uncertainty in Young Adult Survivors of Childhood and Adolescent Cancer with Lower-Extremity Bone Tumors in Japan. *Journal of adolescent and young adult oncology*. 2019.02; 8(3); 291-296
2. Shilpa Pavethynath, Chihiro Imai, JIN Xin, Naomi Hichiwa, Hidemi Takimoto, Motoko Okamitsu, Iori Tarui, Tomoko Aoyama, Satoshi Yago, Ayako Fudono, Masaaki Muramatsu, Naoyuki Miyasaka and Noriko Sato. Metabolic and immunological shifts during mid-to-late gestation influence maternal blood methylation of CPT1A and SREBF1 *International Journal of Molecular Science*. 2019.03;

[総説]

1. Pavethynath Shilpa, 今井千裕, 飛知和尚美, Jin Xin, 瀧本秀美, 岡光基子, 樽井依織, 青山友子, 矢郷哲志, 不殿絢子, 宮坂尚幸, 佐藤憲子. 妊娠後半期の末梢血における脂質関連遺伝子の DNA メチル化 日本栄養・食糧学会大会講演要旨集. 2019.04; 73 回; 225
2. 岡光基子, 大久保 功子, 三国久美, 矢郷哲志. エビデンスに基づく産前・産後における家族支援システムの構築に向けた試み 日本看護科学学会学術集会講演集. 2019.11; 39 回; [K27]
3. 来生 奈巳子, 岡光基子, 矢郷哲志, 大久保 功子. 入院している子どもの倫理的課題に関する看護師のナラティブ 規則による不条理と治療の暴力性 日本看護科学学会学術集会講演集. 2019.11; 39 回; [O13-04]

[講演・口頭発表等]

1. Pavethynath Shilpa, 今井千裕, JIN Xin, 飛知和尚美, 瀧本秀美, 岡光基子, 樽井依織, 青山友子, 矢郷哲志, 不殿絢子, 宮坂尚幸, 佐藤憲子. 妊娠後半期の末梢血における脂質関連遺伝子の DNA メチル化. 第 73 回日本栄養・食糧学会大会 2019.05.18 静岡
2. 岡光基子. シンポジウム【子育てによりそう～気づきから支援までの実践に学ぶ～】乳幼児精神保健と看護～親子のアセスメントと関係性支援～. 日本フォレンジック看護学会 第 6 回学術集会 2019.08.31 東京
3. 幸本 敬子. シンポジウム【子育てによりそう～気づきから支援までの実践に学ぶ～】地域における子育て支援～看護職を中心とした乳幼児精神保健に基づく実践～. 日本フォレンジック看護学会 第 6 回学術集会 2019.08.31 東京
4. Fudono A, Sato N, Takimoto H, Okamitsu M, Imai C, Aoyama T, Yago S, Tarui I, Yomogita H, Miyasaka N. Trimester Specific Difference in Exosomal MicroRNA Expression.. DOHAD 2019 Congress 2019.10.22 Melbourne
5. Imai C, Pavethynath S, Xin J, Hichiwa N, Takimoto H, Okamitsu M, Tarui I, Aoyama T, Yago S, Fudono A, Muramatsu M, Miyasaka N, Sato N. Intra- and Inter- individual Differences in CPT1A and SREBF1 Methylation of Maternal Leukocytes During Mid-to-Late Gestation.. DOHAD 2019 Congress 2019.10.22 Melbourne

6. 勝本 祥子, 丸 光恵, 前田 留美. 小児・思春期に発症した四肢の悪性骨腫瘍の経験者の就労に関する不安と関連要因. 第 17 回小児がん看護学会 2019.11.14 広島
7. 鈴木 嘉代子, 幸本 敬子, 大川 洋二. 乳幼児精神保健に基づいた多職種連携による育児支援～発達障害を持つ母と子どもへの支援～. 日本乳幼児精神保健学会 FOUR WINDS 第 22 回全国学術集会沖縄大会 2019.11.23 沖縄
8. 来生 奈巳子, 岡光 基子, 矢郷 哲志, 大久保 功子. 入院している子どもの倫理的課題に関する看護師のナラティブ - 規則による不条理と治療の暴力性 -. 第 39 回日本看護科学学会学術集会 2019.11.30 金沢
9. 岡光基子. シンポジウム【多層的・多領域の乳幼児臨床に向けて】家族看護の実践における乳幼児精神保健. 第 29 回日本乳幼児医学・心理学会 2019.11.30 博多
10. 岡光 基子, 大久保 功子, 三国 久美, 矢郷 哲志. エビデンスに基づく産前・産後における家族支援システムの構築に向けた試み. 第 39 回日本看護科学学会学術集会 2019.12.01 金沢
11. 幸本 敬子. シンポジウム【こどもの今、未来一虐待、いじめ、PTSD の治療とその先一】乳幼児精神保健に基づく育児支援 虐待・いじめ・トラウマを抱える親子へのアプローチ. 第 8 回日本情動学会 2019.12.14 東京

[社会貢献活動]

1. 乳幼児保健学会 理事 (岡光基子), 2012 年 04 月 01 日 - 現在
2. お茶の水看護学雑誌 査読委員 (岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016 年 04 月 01 日 - 2019 年 03 月 31 日
3. 日本乳幼児医学・心理学会 評議員・編集 (岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2016 年 04 月 01 日 - 2020 年 03 月 31 日
4. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査 (岡光基子), 東京わかまつ会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
5. お茶の水看護学研究会 会長・編集委員 (岡光基子), お茶の水看護学研究会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
6. 乳幼児保健学会 事務局 (矢郷哲志), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
7. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ (矢郷哲志), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
8. 日本体育大学 非常勤講師 (岡光基子), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
9. 日本乳幼児医学・心理学研究 査読委員 (岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
10. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師 (岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016 年 07 月 20 日 - 現在
11. 公益社団法人東京都歯科医師会附属歯科衛生士専門学校 非常勤講師 (矢郷哲志), 2017 年 04 月 01 日 - 2019 年 03 月 31 日
12. JNCAST 講習会 講師 (岡光基子), 東京医科歯科大学, 東京有明医療大学, 2017 年 08 月 26 日 - 現在
13. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師 (岡光基子), 小田原保健福祉事務所/柏市保健所, 2017 年 09 月 28 日 - 現在
14. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート 保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師 (矢郷哲志), 2017 年 09 月 28 日 - 現在
15. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師 (矢郷哲志), 小田原保健福祉事務所/柏市保健所, 2017 年 09 月 28 日 - 現在
16. 東京有明医療大学 非常勤講師 (矢郷哲志), 2018 年 04 月 01 日 - 現在
17. 日本体育大学 特別講師 (矢郷哲志), 2018 年 04 月 01 日 - 現在
18. 2019 年度 神奈川県小田原保健福祉事務所 母子保健福祉社会委員 (岡光基子), 神奈川県小田原保健福祉事務所, 2019 年 03 月 11 日
19. 乳幼児保健学会 評議員 (矢郷哲志), 2019 年 04 月 01 日 - 現在

20. お茶の水看護学雑誌 査読委員（矢郷哲志），お茶の水看護学研究会, 2019年04月01日 - 現在
21. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」（小児看護実践基盤コース）作成および講師（岡光基子），日本小児看護学会, 2019年05月22日 - 現在
22. 日本フォレンジック看護学会 第6回学術集会 実行委員（矢郷哲志），日本フォレンジック看護学会, 東京医科歯科大学, 2019年08月31日 - 2019年09月01日
23. 乳幼児保健学会第13回学術集会 企画委員（岡光基子），乳幼児保健学会, 和洋女子大学, 2019年10月26日
24. 乳幼児保健学会第13回学術集会 企画委員（矢郷哲志），乳幼児保健学会, 和洋女子大学, 2019年10月26日

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

教授 大久保 功子

講師 三隅 順子

大学院生

博士5年一貫課程

佐野 深雪

鈴木 由美子（休学中）

佐藤 千鶴

石田 徹

今村 美聡

戸田 あゆみ

間 潔如（研究生）

総合保健看護学専攻 博士課程

小田柿 ふみ

非常勤講師

松岡 秀明

勝又 織里

櫻井 亜古

(1) 分野概要

当該分野では、主に性と生殖に関する健康と権利にかかわる看護や助産についての研究教育を行っています。周産期ならびに、女性の生涯にわたる看護あるいは助産に関する研究者に必要とされるであろう能力を高めるために、EBMやNBMの視点をおりまぜながら、研究のトレンドを探り、研究方法の歴史的背景や哲学的立場を踏まえ、深く掘り下げた研究クリティークを行っています。

学部教育では、看護師国家試験受験資格に必須とされている、母性看護学の講義、演習、実習、卒業論文を担当しています。

不定期ですが、質的研究の勉強会も開催しています。

(2) 研究活動

現象学、GT、エスノグラフィー、疫学、演繹的帰納的アプローチ、ナラティブ研究法など、研究課題に則して適切に研究方法を選択して取り組むべく、日夜努力しています。単なる手順として研究法を理解するのではなく、その歴史的背景や哲学から理解することを目指しています。女性と性的マイノリティの人のための看護実践、助産学、看護学、人間科学における知を開発するための研究にも取り組んでいます。かといって、量的研究を行わ

ないわけではなく、疫学的手法や共分散構造分析を用いた尺度開発も行っています。代替医療、精神分析学、対人関係論、カウンセリング理論、アタッチメント理論、絆理論、看護理論、助産理論についても学び続けています。大久保は主に親子の精神的健康、三隅は DV に関心を持って研究と実践に取り組んでいます。

現在、Chinn の抄読会を行っています。また、ファミリーパートナーシップモデルの基となっている、Kelly 心理学の抄読会を予定しています。これらの活動に関しては、今後、オープンにしていく可能性があります。興味のある方は連絡をいただければと思います。

昔在籍していた櫻井さんが、論文執筆のために戻ってきてくださいました。今まで取りためたデータを形にすることで、社会に少しでも貢献出来たらよいと考えております。

(3) 教育活動

2020 年度 4 月の時点で、大学院には博士 5 年一貫課程に 7 名の学生が在籍しています。

チリ在住の小田柿ふみ氏が博士後期課程を修了し、博士(看護学)の学位を取得しました。東京在住の勝又里織氏も、博士(看護学)の学位を取得しました。苦労が結実し、ゼミのみんなで祝いました。

新型コロナ対策の影響で、Zoom でゼミや LINE を結んでのゼミも再開しようと思っています。

教育活動として、自分の研究課題に取り組むだけではなく、様々な研究のプロセスを学びあい、お互いに切磋琢磨する環境づくりをこころがけています。現在は Mix Methods, GT, Narrative Method, Ethnomethodology と、実に多様な研究法で学生は研究に取り組んでおります。副指導担当となっている他領域の学生にも、当該分野のゼミに参加して発表し、議論していただいています。

(4) 教育方針

自分の心で感じ、頭で考え、書くことができる、これからの研究者を育てることをモットーとしています。

(5) 臨床活動および学外活動

大久保は主に質的研究、三隅は DV 被害者支援関係で全国行脚をしていました。

(6) 研究業績

[原著]

1. 佐藤 千鶴, 大久保 功子, 三隅 順子, 今村 美聡. 質的記述的研究による看護師の技の探求 早産児の日常生活援助に着目して 日本看護科学学会学術集会講演集. 2019.11; 39 回; [PA-23

[書籍等出版物]

1. 大久保功子, 小林康江, 松尾邦功, 荒木奈緒, 中塚幹也他. 概論・リプロダクティブヘルス看護学. メディカ出版, 2019.01
2. 齋藤いずみ, 大平光子, 定方美恵子, 長谷川ともみ, 三隅順子. 看護学テキスト NiCE 母性看護学 I 概論・ライフサイクル 改訂 2. 2019.03

[総説]

1. 平田 三奈, 戸田 あゆみ, 廣山 奈津子, 山縣 千尋, 西川 裕理, 深堀 浩樹. 知的障害者の家族の課題と支援に関する質的研究の文献検討 小児看護. 2019.08; 42(9); 1183-1189

[講演・口頭発表等]

1. Sato C, OKubo N, Misumi J. Effects of handling for preterm infants: Focused on Nursing Intervention. A literature review. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars 2019.01.17 Singapore
2. 三隅順子. SANE 養成に携わって. 日本フォレンジック看護学会 第 6 回学術集会 2019.08.31 東京: 東京医科歯科大学

3. 平川和子, 三隅順子. 性暴力被害直後からの支援の実態と課題. SARC 東京の实践から. 日本フォレンジック看護学会 第6回学術集会 2019.08.31 東京: 東京医科歯科大学
4. 佐藤千鶴, 大久保功子, 三隅順子. 質的記述的研究による看護師の技の探求: 早産児の日常生活援助に着目して. 第39回日本看護科学学会学術集会 2019.12.01 金沢

[Works]

1. 【視聴覚教材】性暴力被害者ワンストップ支援センターでの対応について, 教材, 性暴力被害者ワンストップ支援センターの新規支援者研修, 2017年05月 - 現在

[受賞]

1. ひまわり賞 (実践ポスター最優秀賞), 日本フォレンジック看護学会第6回学術集会, 2019年09月

[その他業績]

1. SANE 養成, 2019年02月
性暴力被害者支援看護職の研修プログラムの企画運営実施
(2007年度より年3回実施)
2. 妊娠期からのファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援の有効性, 2019年04月
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究課題番号: 15K11695.2015 ~ 2019年

3. SANE 養成研修, 2019年07月
Sexual Assault Nurse Examiner の養成研修 40時間/年のコースを企画運営している。
4. 日本フォレンジック看護学会第6回学術集会【学会長】, 2019年08月
SANE/支援者に必要な知
~マージナルな世界を知る~

性暴力被害当事者の声を聞き、支援者として必要なことは何かを考える。
シンポジウム、ワークショップ、招聘講演を含む
5. 精神障害を抱える妊産婦のケアで、助産師が直面する困難と対処
大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究C)

[社会貢献活動]

1. 日本看護科学学会誌査読委員英文誌, 2003年10月01日 - 現在
2. SANE 研修 講義&ワーク: 性暴力被害女性への看護の実際, 女性の安全と健康のための支援教育センター, SANE 研修, 東京有明医療大学, 2004年04月01日 - 現在
3. 乳幼児保健学会理事, 2008年05月01日 - 現在
4. 御茶ノ水看護学研究会理事, 2010年10月01日 - 現在
5. 子どもの健康と環境に関する全国調査倫理問題検討委員, 国立環境研究所, エコチル調査, 2011年04月01日 - 現在
6. SAFER 研修 ミニレクチャー&ワーク, NPO 法人 レジリエンス, 2012年12月12日 - 現在
7. SARC 東京 支援員研修講座, SARC 東京, 江戸川グリーンパレス, 2018年05月19日 - 現在
8. 宮城登米産業高 性的自己決定権と Consent, みやぎジョネット, 宮城県内学校性教育, 宮城県登米総合産業高等学校/福祉科, 2018年07月19日 - 現在
9. ワンストップ支援センター和歌山 mine ボランティア養成研修, NPO 法人 レジリエンス, 和歌山性暴力被害者支援研修 2018, 和歌山県 和歌山ビッグ愛: 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2, 2018年08月18日 - 現在

在宅ケア看護学

Home Care Nursing

教授	本田 彰子 (2019年3月まで)
講師	内堀 真弓
	遠藤 貴子 (2019年10月から)
院生	栗田 敦子 (2019年3月まで)
	柿沼 直美
	星 智子
	相島 美彌
	坂野 朋未
	佐川美枝子
	樋口 朝霞 (2019年3月まで)
	朝見 優子 (2019年5月まで)
	今 亜矢
	野中さゆり
研究生	Y U T I A N L A I
	宮川 久恵

(1) 分野概要

地域包括ケアの時代に向けて、急性期・慢性期、および終末期において保健医療福祉が連携協働して地域で暮らす人々の健康の維持増進、疾患や障害を持って生活する人々への支援について、看護実践力を身に着ける教育と、関連する看護方法の開発、研究を行う。大学院教育では、特に終末期にある人々とその家族が、自宅で安心安楽な療養ができ、QOLを維持するための介入方法を探索、開発している。加えて、地域中心の療養生活を円滑に支援する社会の仕組みを構築するために、医療施設の入退院、外来看護の充実、保健医療福祉の多職種連携、および、在宅ケア専門職の育成を研究課題として取り組んでいる。

(2) 研究活動

在宅看護学における実践的な問題解決または改善の方策についての研究に取り組んでいる。

1. 在宅ケアにおける自立支援からターミナルケアまでの健康状態や障害レベルに合わせた実践的研究
2. 在宅ケアにおけるアウトカム評価・ケアの提供方法・ケアマネジメント・ケアシステム・運営管理方法・継続ケア
3. 健康問題や生活問題を持つ人々の家族を単位としたケア技術の理論構築と実践への応用
4. 訪問看護を取り巻く介護医療に関わる制度およびサービス提供体制
5. 訪問看護師への支援体制作り
6. 神経難病患者・がん終末期患者等医療依存度の高い療養者の訪問看護
7. 在宅ケアに関わる保健福祉医療等他職種の連携
8. 訪問看護における高齢者ケア、ターミナルケア
9. 病院から在宅への移行期における緩和ケア
10. がん患者家族への在宅での療養支援
11. 地域住民のネットワーク形成
12. 訪問看護師の現任教育
13. 慢性疾患患者のセルフケア支援
14. 慢性疾患患者の継続看護

(3) 教育活動

学部教育においては、2年生を対象とした講義では、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について教育している。

3年生を対象とした講義・演習・実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びを深めている。演習では具体的な訪問看護技術、および看護の展開を学ぶ機会としている。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めている。

卒業研究では、学生の関心を尊重し学生と相談してテーマを決め、適切な研究フィールドを提供することによって、実践的な在宅ケア看護研究ができるように指導している。

大学院教育においては、訪問看護、退院調整支援、地域における他職種との連携、在宅ターミナルケア等の研究課題に対する講義演習を行い、これらの学習と臨床経験を基に、高齢社会における在宅看護の課題に注目し、それぞれ実践的な研究に取り組む支援をしている。在宅看護に対する期待が高まる現在の社会情勢を鑑み、実践の場で活動ができ、かつ、今後指導的立場で教育・実践・研究に関わる人材の育成を目指している。

(4) 教育方針

在宅看護は対象の年代、疾患を特定せず、広く対象のニーズに対応できる看護を提供するものである。よって、他の領域の講義演習、および実習での学習を踏まえて、それを統合する形で対象者にケアを提供することが求められる。また、生活の場を重視した援助は、医療職のみならず、介護福祉職や一般の住民と連携をとることが求められる。社会の一員としての立場をとりつつ、ケア提供ができることも求められる。このような在宅看護の特徴を伝えていくことを大切にしたい。

(5) 臨床活動および学外活動

訪問看護の職能団体である日本訪問看護財団の活動には、「調査研究活動」「人材育成研修活動」「研究支援（研究倫理審査委員会）活動」等に加わっている。また、訪問看護師の実践における学習支援プログラムの開発の研究は、現任教育の課題に取り組むものであり、実習受け入れ訪問看護ステーションとの関係強化につながると考えられる。

また、慢性疾患患者のセルフケア支援の実践として、フットケアの資格を活かし、糖尿病患者の足病変の外来相談に加わっている。

(6) 臨床上の特色

臨床活動のほとんどが、附属病院以外の場となっており、医学部附属病院を中心とした臨床看護に貢献することが少ない。しかし、在院日数が短くなっている現在、退院調整や外来看護も在宅看護に含まれると考えられ、地域での教育研究活動・実践活動を外来看護や退院支援につなげることで、双方にとっての発展が期待できる。

特に、地域包括ケアシステム構築が急務である現在、高齢者療養支援に留まらず、地域に住む人々の健康の維持増進、住み慣れた自宅での看取りに関わる看護職が求められており、看護基礎教育、および現任教育で在宅ケアを担える看護職の育成に貢献できると考える。

(7) 研究業績

[原著]

1. 三部 ひさ子, 山崎 智子, 内堀 真弓, 本田 彰子. 再発期の肺がん患者が希望を見だし生きるプロセス 臨床死生学. 2019.03; 23(1); 10-19
2. Koshimoto S, Arimoto M, Saitou K, Uchibori M, Hashizume A, Honda A, Amano K, Nakajima Y, Uetake H, Matsushima E. Need and demand for nutritional counselling and their association with quality of life, nutritional status and eating-related distress among patients with cancer receiving outpatient

chemotherapy: a cross-sectional study. Supportive care in cancer : official journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer. 2019.09; 27(9); 3385-3394

3. 柿沼 直美, 本田 彰子, 神山 吉輝, 内堀 真弓, 山崎 智子. 訪問看護ステーションにおけるリフレクシオン志向型カンファレンスの学習指標の開発 日本在宅看護学会誌. 2019.10; 8(1); 2-10
4. 平岩 千明, 大久保 功子, 高野 歩, 遠藤 貴子. 精神症状が急性増悪した病人の家族の体験に関する文献検討 日本看護科学学会学術集会講演集. 2019.11; 39 回; [PA-7

[総説]

1. 田村 里佳, 内堀 真弓, 本田 彰子, 山崎 智子. 未成年の子どもをもちがんに罹患した親の子育てにおける経験に関する研究の動向と課題 家族看護学研究, 2019, 25(1) : 2-13. 2019.03; 25(1); 2-13

[講演・口頭発表等]

1. 内堀真弓. 看護から医工連携を考える～在宅療養支援の視点から～. Medical Round Project 医師と企業を繋ぐ 医工連携展示会 2019.11.28

[社会貢献活動]

1. 日本難病看護学会誌 編集委員長, 2008 年 04 月 01 日 - 現在
2. 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読委員, 日本糖尿病教育・看護学会, 2016 年 04 月 - 2020 年 08 月
3. お茶の水会看護同窓会 副会長, お茶の水会看護同窓会, 2018 年 05 月 19 日 - 現在

がんエンドオブライフケア看護学

End-of-Life Care and Oncology Nursing

准教授	山崎	智子
院生	三部	ひさこ
	田村	里佳
	伏見	真由
	柳谷	利恵
	牧野	倫子
	西塚	祐樹
	片岡	綾華
	佐藤	由紀子
	劉	菲

(1) 分野概要

本分野では、がん患者を中心に、診断・治療初期、外来治療継続の時期、人生の終末の時期にある患者や家族の意思決定、症状緩和や苦悩についての体験を明らかにすること、さらには残された遺族の体験や困難を明らかにし、看護支援の必要性や支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元によるがんエンドオブライフケア看護学の構築を目指している。

(2) 研究活動

本分野では、がんの罹患から終末期に至るまでの様々な病期にある患者・家族の苦悩を理解し、自身の望む生き方がかなえられる意思決定支援や患者・家族の力を高める看護支援や遺される人々への苦悩に寄り添い、生き抜く力を支えるケアについても探求している。

1. がん再発期にある患者の希望を支える看護支援の開発
2. 壮年期のがん患者とその子供を支える看護支援
3. がんの再発を繰り返す患者のレジリエンスを支える看護支援の開発
4. 治癒の望めない進行がん患者と家族の終末期を支える看護支援
5. がん患者との死別を体験した遺族へのグリーフケア
6. 患者と死別した看護師のグリーフを支援するプログラムの開発

(3) 教育活動

学部教育においては、4年生の緩和ケア看護学の講義で、病院での医療・看護のみならず、人々が暮らしている自宅を療養の場としてケアを展開することへの理解を深める。そのために、在宅ホスピスを中心に、終末期にある人々と家族の特徴を理解し、QOLの向上を目指した看護について、自宅での症状コントロールや療養の体制作り、看取りおよびその後の家族に対する看護の理解を目指している。

また遺族へのグリーフケアや看護師のグリーフや共感疲労についても理解を深め看護師自身のセルフケアにつ

いても教授する。

大学院教育では、がん看護の専門性の追求と発展の教育研究に加え、高度実践者としてのがん専門看護師（CNS）教育を行っている。

5年一貫制博士課程の利点をいかして、5年間の中で自身の追求したい研究テーマに合わせて、柔軟に実習を組み込みながら研究を進めることができるようにしている。

(4) 教育方針

常に一人の人として、よく生き、よく死ぬことについて考えを深め、死生観を醸成する。それらを基盤にして、人生の危機にある他者を援助する看護について考えることが出来る実践者、研究者を育成する。

さらにコミュニティーの中においても、病気を持っていても持っていなくても、人としてよく生き、よく死のうとする人々とともに考え、生と死について考えを深めるための手助けをする役割を果たす人になることを目指す。

(5) 臨床活動および学外活動

がんを罹患した人々が、自身の気持ちや体験を発信するコミュニティーに参加し、体験を書き起こし記録するなどの活動を支えている。

地域の中でがんを罹患した人々、自宅で終末期を過ごす人々を支える訪問看護の現場において看護活動を行っている。

コミュニティーにおいて、がんを罹患した患者・家族・遺族、そのような体験はないが自身の死やがんについて考える人々が集う、「がん哲学外来・聖橋プラムカフェ」を大学院生が主催し、分かち合いの場の提供と支援を行っている。

家族に限らず、愛する対象を亡くし遺された人々を対象として、GCC認定グリーフカウンセラーとしてカウンセリングを行っている。

(6) 臨床上の特色

実習や研究を行う場は、がんを罹患した患者・家族の存在するところ、どこにおいても看護の役割について考える場となりうる。

病院施設、在宅療養の場のみならず、コミュニティーにおいても、患者・家族がいかに自分らしく生きるか、そのためにどのような人的・物的資源を活用して支援をしていけるかを考えていく。

(7) 研究業績

[原著]

1. 三部 ひさ子, 山崎 智子, 内堀 真弓, 本田 彰子. 再発期の肺がん患者が希望を見だし生きるプロセス 臨床死生学. 2019.03; 23(1); 10-19
2. 柿沼直美, 本田彰子, 神山吉輝, 内堀真弓, 山崎智子. 訪問看護ステーションにおけるリフレクション志向型カンファレンスの学習指標の開発 日本在宅看護学会誌. 2019.10; 8(1); 2-10

[総説]

1. 伏見真由, 山崎智子. 国内の質的研究におけるがん患者と死別する家族の体験の統合 家族看護学研究. 2019.02; 24(2); 206-217
2. 田村 里佳, 内堀 真弓, 本田 彰子, 山崎 智子. 未成年の子どもをもちがんに罹患した親の子育てにおける 経験に関する研究の動向と課題 日本家族看護学会. 2019.09; 25(1); 2-13

[社会貢献活動]

1. グリーフ（悲嘆）とグリーフケア，常盤台がん哲学外来，第 20 回常盤台がん哲学外来，東京都板橋区常盤台 2-3-3 常盤台バプテスト教会，2019 年 02 月 16 日
2. グリーフとグリーフケア，横浜市鴨居地域ケアプラザ 地域包括支援センター，グリーフケア研修会，横浜市鴨居地域ケアプラザ，2019 年 10 月 31 日

国際看護開発学

International Nursing Development

教授 近藤 暁子

非常勤講師

ANN L. ECKHARDT

非常勤講師

CHIANG CHUNG LIMVICO

非常勤講師

MABEL C. EZEONWU

非常勤講師

ANN L. ECKHARDT

非常勤講師

CHIANG CHUNG LIMVICO

非常勤講師

大田 えりか

非常勤講師

MABEL C. EZEONWU

大学院生

ABULIEZI RENAGULI

大学院生

HUA JING

大学院生

栗原 淳子

学生

LIU XIAOYU

学生

QIAN HUILIN

学生

WEN LIANG

学生

HUA JING

学生

QIAN HUILIN

(1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主として大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

(2) 研究活動

主に成人～高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探求している。近年の研究テーマは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行っている。欧米では患者のコントロール感が高いほど患者の回復が良いという研究結果が多く示されている。日本にはお任せ医療という文化があると言われていたが、実際コントロール感に

ついて日米の患者と違いがあるのか、コントロール感が患者のアウトカムに影響しているのか検証している。また、大学院生は留学生の健康管理や外国人看護師の日本での活躍と困難について探求予定である。

(3) 教育活動

1) 学部教育

学部4年生を対象として、「国際保健看護学」および「総合実習」を担当している。国際保健看護学では、単に諸外国の医療と看護の現状を理解するに留まらず、各国・地域の歴史・社会システムの変遷と関連から、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養うことを重視している。遠隔講義システムを利用し香港理工大学 Vico Chiang 准教授および米国イリノイウェスレヤン大学 Ann Eckhardt 講師の講義を英語で実施している。「総合実習」では4年間の学びを統合し、複数受け持ちや外国人医療、医療チームでの協力、について実践の中から学ぶ。

さらに学部24年生を対象とした「実践看護英語」を自由選択科目として開講している。ネイティブスピーカーの講師や留学生とともに異文化看護について英語で学ぶ。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行っている。

また「卒業研究」では留学生を対象とした日本での病院受診時の体験調査や病院の看護師を対象とした外国人患者対応に必要な研修内容について調査した。2015年のネパールでの地震後災害救援活動にあたった看護師の方12名にインタビューを行い、看護師の活動や今後の課題についてまとめた学生は2017年世界看護科学学会で口演し、英文誌に投稿中である。

2) 大学院教育

共通科目では「看護研究方法論（国際比較研究）」および「国際看護研究方法論」を担当している。「看護研究方法論」は主に国際比較研究の方法について講義や論文のクリティークを行っている。「国際看護研究方法論」は、英語によるプレゼンの練習、研究計画書の作成方法を講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。

(4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を發揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人期から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

(5) 臨床活動および学外活動

8月には海外研修としてシアトルワシントン大学病院の見学、日系老健施設での実習、ボランティア活動、シアトル大学訪問などを行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Shiori MIURA, Akiko KONDO and Yuki TAKAMURA. Practices and challenges of disaster nursing for Japanese nurses sent to Nepal following the 2015 earthquake Health Emergency and Disaster Nursing. 2019; (in press);
2. 成瀬和子, 杉本敬子, 柳澤理子, 神原咲子, 近藤麻理, 近藤暁子, 田代順子, 南裕子, 中山洋子. 日本の看護系大学院におけるグローバル化の現状 日本看護科学会誌 . 2019; 39; 254-260
3. 小泉麻美, 吉田澄子, 金子美樹, 田口友美, 真鍋高子, 近藤暁子. インシデントレポート報告率と属人風土との関連 日本看護学会論文集 看護管理. 2019.02; 49; 43-46

[講演・口頭発表等]

1. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Tomomi Oki, Amane Otaki, Ann L. Eckhardt. The association between perceived control and health related quality of health in Japanese patients after acute coronary syndrome. ICN Congress 2019 Singapore 2019.07.29 Singapore
2. 栗原淳子, 近藤暁子. 看護師の精神疾患患者に対する感情と関連要因. 日本国際看護学会 第3回学術集会 2019.09.14 横浜市
3. 近藤暁子, 上林千佳, 小泉麻美, 二見茜. 大学病院と総合病院における外国人患者対応研修に関する看護師のニーズおよび参加意欲. 日本国際看護学会 第3回学術集会 2019.09.14 横浜市
4. 近藤暁子. 教育者の立場から：日本の看護学生が学ぶべき国際看護について将来国際的に活躍するためにはどのように人材育成をしていくべきか. 日本国際看護学会 第3回学術集会 2019.09.14 横浜市
5. 雨澤寿美子, 杉浦由紀子, 山下直美, 長倉芳徳, 近藤暁子. 血管撮影室で自己心拍再開後の昏睡患者への体温管理療法の導入されにくい要因—医師・看護師の意識調査より—. 第50回日本看護学会(2019年度) 2019.10.23 名古屋

[社会貢献活動]

1. 外国人患者向け医療対応, 日本経済新聞社, 日経グローバル, 2019年05月07日
2. 国際看護学の効果的な授業について考えよう!, 日本国際看護学会, 横浜市, 2019年09月15日

看護システムマネジメント学

Nursing System Management

准教授	:	佐藤 可奈
助教	:	廣山 奈津子
大学院生	:	折見 隆広 (～2019年3月)
		岩崎 弓子
		山縣 千尋
		森 陽子
		那須 佳津美
		奥村 朱美
		西川 裕理
		大河原 啓文 (～2019年3月)
研究生	:	山口 さおり (2019年4月～)
		山住 康恵 (2019年5月～)
		WANG Xiaobei (2019年9月～)
事務補佐員	:	日置 章子

(1) 分野概要

看護学の研究者・教育者・実践者が、看護学および関連領域の知見を活用して行う質の高い研究の成果を、社会構造や医療の提供体制および看護が果たす役割の変化を踏まえながら、国内外の学術コミュニティ・臨床現場に発信していくことを目指して研究・教育に取り組んでいます。

(2) 研究活動

大学院教育では、所属する大学院生が自律して主体的に研究を行う能力と学際・国際間のコミュニケーションを図る能力を身につけて、将来的に自らの研究成果を、研究者・教育者・実践者として国内外の学術コミュニティ・臨床現場に発信することができるようになることを目指して研究指導を行っています。そのため、個々の院生が、特定のテーマや方法論に縛られることなく、教員の支援を受け教員と協働しながら、自ら研究テーマを定め、そのテーマにふさわしい方法論や研究フィールドを見出して研究を進めていくことを重視しています。

(3) 教育方針

社会および医療の中での看護の位置づけを理解した上で、効果的な看護や医療の提供体制や質の保証に関する研究・実践についての知識を身につけ、専門職である看護職として研究・実践に取り組む能力を育成することを目指して教育に取り組んでいます。

1) 学部教育

1. 学部1年生を対象として「看護の統合と実践Ⅰ」を、学部4年生を対象として、「看護の統合と実践Ⅱ」、「看護の統合と実践実習Ⅰ・Ⅱ」を担当しています。いずれの科目においても、社会における看護の立ち位置を意識しながら専門職として主体的に学習する能力の育成を重視しています。
2. 卒業論文では4名の学生を担当しています。学生の関心に応じて自由にテーマを設定しつつ、研究の一連のプロセスを経験できるようにしています。

2) 大学院教育

1. 「看護管理学特論」, 「看護政策学特論」, 「看護学研究法特論(一部)」, 「看護研究方法論(グランデッドセオリー:一部)」, 「看護システムマネジメント学特論」を担当しています。
2. 所属大学院生が, 自律して主体的に研究を行う能力と卓越したコミュニケーション能力によって必要に応じて学際的・国際的な連携を取りつつ, 国内外の研究成果を読み解くと同時に, 自らの研究成果を国内外に発信することによって, ヘルスケアの質の向上に寄与することができる看護学の研究者・教育者・看護管理者となることできるように, 研究環境を整え, 教員・大学院生が協働する形で研究に取り組んでいます。そのため, 大学院生が特定のテーマや方法論に縛られず, 各自が研究者・教育者・看護管理者としてテーマを明確に定め, そのテーマにふさわしい方法論や研究フィールドで研究を実施することを重視しています。

(4) 研究業績

[原著]

1. 井上修一, 岩崎弓子, 酒井郁子, 杉山智子, 奥村朱美, 大河原啓文, 深堀浩樹. 介護付有料老人ホームにおける家族支援の特徴 人間関係学研究: 大妻女子大学人間関係学部紀要. 2019.02; 20; 89-99
2. Katsumi Nasu, Rie Konno, Hiroki Fukahori. End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. International Journal of Nursing Practice. 2019.07; e12771
3. Okumura-Hiroshige Akemi, Fukahori Hiroki, Yoshioka Sachiko, Nishiyama Midori, Takamichi Kaori, Kuwata Miyoko. Developing a Measure of End-of-Life Care Nursing Knowledge for Japanese Geriatric Nurses JOURNAL OF HOSPICE & PALLIATIVE NURSING. 2019.08; 21(4); E1-E9
4. Nasu K, Sato K, Fukahori H. Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. Journal of advanced nursing. 2019.12;

[書籍等出版物]

1. 井上智子, 窪田哲朗, 那須佳津美, 他. 緊急度・重症度からみた 症状別看護過程+病態関連図 第3版. 医学書院, 2019.11

[総説]

1. 花田 美里, 赤井畑 明里, 長尾 祥子, 廣山 奈津子, 瀬戸 菜月, 深堀 浩樹. 【臨床実践を研究につなげる「ケアの意味を見つめる事例研究」に臨床の現場で取り組む】事例研究の実際 安静指示のある脊椎疾患患者に提供された「あうんの呼吸」による看護 安静保持が難しい患者の事例から 看護研究. 2019.07; 52(4); 254-263
2. 志田淳子, 大塚真理子, 佐藤可奈, 井村紀子, 菅原よしえ, 高橋和子. 看護学生が認識するクリニカル IPE の効果および課題の明確化 —同じフィールドで行われている他大学薬学部との IPE の試み— 日本看護科学会誌. 2019.08; 39(1); 1-9
3. 平田 三奈, 戸田 あゆみ, 廣山 奈津子, 山縣 千尋, 西川 裕理, 深堀 浩樹. 知的障害者の家族の課題と支援に関する質的研究の文献検討 小児看護. 2019.08; 42(9); 1183-1189
4. 佐藤可奈. 暴力への対応の実際: 看護師長へのインタビュー調査から 日本看護評価学会誌. 2019.08; 9(1); 21-24
5. 佐藤可奈, 大塚真理子, 志田淳子, 井村紀子, 薄井健介, 菅原よしえ, 岡田浩司, 高橋知子, 渡辺善照. 二大学が連携し既存の実習に組み込んで行った クリニカル IPE がもたらす学習経験 —薬学部生と看護学部生へのインタビューに基づく質的記述的研究— 保健医療福祉連携. 2019.08; 13(1); 2-10

[講演・口頭発表等]

1. 佐藤可奈. 暴力への対応の実際: 看護師長へのインタビュー調査から. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.11
2. 夏目 華帆, 佐藤 可奈, 廣山 奈津子. 看護職の離職および離職防止対策についての研究動向. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.12

3. 森陽子、深堀浩樹. 新人訪問看護師の訪問看護への就労継続を促す訪問看護事業所の教育的支援. 第 24 回日本在宅ケア学会学術集会 2019.07
4. 佐藤可奈, 木村三香. 患者・家族の攻撃的行動への対処についての教育内容に対する認識：看護職者へのインターネット調査. 第 23 回日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟
5. 緒方泰子, 佐藤紀子, 武富貴久子, 米倉佑貴, 佐藤可奈, 湯本淑江, 森岡 典子. 看護組織におけるマネジメント力育成に向けた協働学習の可能性：知識と経験の統合. 第 23 回日本看護管理学会学術集会 2019.08.23
6. 吉田千文, 山田雅子, 伊藤隆子, 雨宮有子, 佐藤可奈, 佐藤直子, 江口優子, 清水日佐愛. ケア時代の看護管理とは：人間性と効率性の対立をのり越えるための方法論の探求. 第 23 回日本看護管理学会学術集会 2019.08.24
7. 佐藤 美沙稀, 廣山 奈津子. ライフステージ別にみた知的障害者の家族支援に関する文献検討. 日本家族看護学会第 26 回学術集会 2019.09.14 京都
8. 西川裕理. 心不全患者が抱く人生の最終段階のイメージに関するインタビュー調査. 第 3 回日本エンドオブライフケア学会学術集会 2019.09.15 愛知
9. 緒方泰子, 米倉佑貴, 武富貴久子, 佐藤可奈, 佐藤紀子. 看護師長がマネジメントにおいて感じる困難とその内容および精神的健康との関連. 第 57 回日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03
10. 佐藤可奈, 大熊恵子. 看護学生の患者・家族による攻撃的行動の経験と攻撃的行動への対処のための教育についての認識：インターネット調査. 第 39 回日本看護科学学会学術集会 2019.11.30

[社会貢献活動]

1. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (森陽子), 2014 年 03 月 - 現在
2. 日本看護評価学会 幹事 (森陽子), 2016 年 05 月 - 現在
3. 九段坂病院 看護研究指導 (廣山), 2017 年 04 月 01 日 - 2019 年 03 月 31 日
4. 日本フォレンジック看護学会第 6 回学術集会, 実行委員 (廣山), 2019 年 08 月 31 日 - 2019 年 09 月 01 日
5. 日本遺伝看護学会第 19 回学術大会, 実行委員 (廣山), 東京, 2019 年 09 月 28 日 - 2019 年 09 月 29 日

高齢社会看護ケア開発学

Gerontological Nursing and Care System Development

教授 緒方 泰子
助教 湯本 淑江 (2019.5.27～2020.3.31, 産前産後及び育児休業)
助教 森岡 典子 (～2019.03)
助教 菅原 久純 (2019.12.01～2020.03.31)
助教 藤波 景子 (2019.11.16～2020.03.31, 産休代替)

特任講師 前田 留美 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター)
特任助教 伊藤沙紀子 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター)
(2019.04.21～2020.4.30, 産前産後及び育児休業)
特任研究員 丹野 春香 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

大学院生 博士課程 (5年一貫制)

佐々木美樹
長井 聡子
高田 聖果
木田 亮平
伊藤 絢乃
笹井 佳奈

大学院生 博士課程 (後期)

石井 典子

技術補佐員 藤波 景子 (～2019.11.15)
事務補佐員 神内 祐子
事務補佐員 尾張 景子 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

(1) 分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法(個へのアプローチ)に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか(社会システムへのアプローチ)といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応じていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護ケア開発学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

(2) 研究活動

1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
2. 看護ケアの質に関する研究
3. 看護管理学に関する研究

4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究 など

(3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護ケア開発学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Katsumoto S, Maru M, Yonemoto T, Maeda R, Ae K, Matsumoto S. Uncertainty in Young Adult Survivors of Childhood and Adolescent Cancer with Lower-Extremity Bone Tumors in Japan. *Journal of adolescent and young adult oncology*. 2019.02; 8(3); 291-296
2. Nagano, Midori; Ogata, Yasuko; Ikeda, Masaomi; Tsukada, Kunio; Tokunaga, Keiko; Iida, Satoru. Peristomal Moisture-Associated Skin Damage and Independence in Pouching System Changes in Persons With New Fecal Ostomies *Journal of Wound, Ostomy & Continence Nursing*. 2019.03; 46(2); 137-142
3. 大河原知嘉子, 森岡典子, 柏木聖代, 緒方泰子. 東京都の訪問看護事業所における教育・研修の実態と事業所規模との関連—テキストマイニングを用いた混合研究方法による分析— *日本プライマリ・ケア連合学会誌*. 2019.06; 42(2); 85-91
4. Noriko Morioka, Suguru Okubo, Yoshie Yumoto, Yasuko Ogata. Training opportunities and the increase in the number of nurses in home-visit nursing agencies in Japan: a panel data analysis. *BMC health services research*. 2019.06; 19(1); 398
5. 勝本 祥子, 丸 光恵, 前田 留美. 小児・思春期に発症した四肢の悪性骨腫瘍の経験者の就労状況と就労に関する不安 *日本小児血液・がん学会雑誌*. 2019.10; 56(4); 396
6. Morioka N, Moriwaki M, Tomio J, Kashiwagi M, Fushimi K, Ogata Y. Structure and process of dementia care and patient outcomes after hip surgery in elderly people with dementia: A retrospective observational study in Japan. *International journal of nursing studies*. 2019.11; 102; 103470
7. Sasaki Miki, Ogata Yasuko, Morioka Noriko, Yumoto Yoshie, Yonekura Yuki. Development and validation of Nurse Managers' Empowering Behavioral Scale for staff nurses *NURSING OPEN*. 2019.11;

[書籍等出版物]

1. 武村雪絵, 佐々木美奈子, 米倉佑貴, 國江慶子, 市川奈央子, 木田亮平. 看護職員確保対策に向けた看護職及び医療機関等の実態調査. 2019.07

[総説]

1. 前田 留美. 【根拠がわかる治療とケアのベストプラクティス】(第IV章) がん患者へのケアとエビデンス 世代によるかかわりの違いとエビデンス 若年者への看護 AYA 世代がん患者, 小児がん経験者 *がん看護*. 2019.02; 24(2); 218-220
2. 伊藤 沙紀子. 変わりゆく社会を支える循環器看護への期待 ビッグデータを活用した看護研究の動向 *日本循環器看護学会誌*. 2019.03; 14(2); 28-29
3. Yoshie Yumoto, W George Kernohan, Noriko Morioka, Yasuko Ogata. International reflections on caring for people with advanced dementia. *Public Health Nurs*. 2019.03; 36(2); 192-198

4. 奥山 絢子, 岩上 将夫, 友滝 愛, 伊藤 沙紀子, 田中 宏和. 日々の診療情報を用いた研究報告の質向上への提案2—RECORD-PE: The reporting of studies conducted using observational routinely collected health data statement for pharmacoepidemiology (日常的に観察されて集められる健康情報を用いて行われる薬剤疫学研究の報告に関する声明) の日本語版について— 医療の質・安全学会誌. 2019.04; 14(2); 133-138
5. 森岡 典子. 【病院データは”宝の山”! データ分析に基づく看護マネジメント 日々の数字を根拠に, 現場を改革するために】 病院データを用いて, 提供した看護の質を評価する 大腿骨手術を受けた高齢患者のアウトカムと看護提供体制を例に 看護管理. 2019.07; 29(7); 628-634

[講演・口頭発表等]

1. Ryutaro Kase, Yuji L. Tanaka, Hisayoshi Sugawara, Erina Matsushima, Masatoshi Komiyama, Ayumi Amemiya. Relationship between dehydration and amount of drinking water before shifts: a preliminary study. 9th Federation of Asia and Oceania Physiological Societies 2019 Kobe
2. Yuji L. Tanaka, Yume Sasaki, Ayumi Amemiya, Hisayoshi Sugawara, Ryutaro Kase. Physiological effects of two types of sitting positions on the brain and autonomic nerve activities. 9th Federation of Asia and Oceania Physiological Societies 2019 Kobe
3. 杉田由加里, 緒方泰子, 石丸美奈, 田中美延里, 石川麻衣, 松下光子, 屋裕子, 藤木美恵. 自治体のミドルマネジャー保健師の役割行動に関する学習ニーズ. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 2019.01.27 宇部
4. 木下舞, 我満幸子, 森下幸治, 森岡典子, 湯本淑江, 緒方泰子. 排便管理プロトコル導入による効果—看護ケアの変化と患者アウトカムの改善に焦点をあてて—. 第46回日本集中治療医学会学術集会 2019.03.01 京都
5. 甲斐貴雅, 市川奈央子, 武村雪絵, 木田亮平. 看護職が患者に対する怒りに伴い抱える「思考の未統合感」に関する横断研究. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.11 東京
6. 平谷七美, 森岡典子, 佐々木美樹, 湯本淑江, 緒方泰子. 介護保険施設における身体拘束の廃止に関する都道府県の取り組みの実態—インターネット公開資料から—. 第9回 日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京都
7. 木下舞, 森岡典子, 湯本淑江, 緒方泰子. 経腸栄養プロトコル改訂による効果—看護ケアの変化と患者アウトカムの改善に焦点をあてて—. 第9回 日本看護評価学会学術集会 2019.03.12 東京都
8. 佐々木美樹, 森岡典子, 湯本淑江, 緒方泰子. 看護師を対象としたMultidimensional Measure of Leader-Member Exchange日本語版の信頼性と妥当性の検証. 第9回日本看護評価学会学術集会 2019.03.12
9. 古代真穂, 湯本淑江, 高田聖果, 森岡典子, 緒方泰子. 認知症高齢者の好みを通じてその人らしさを支える 介護施設でのインタビュー調査から. 日本老年看護学会第24回学術集会 2019.06 仙台
10. 清沢彩恵, 湯本淑江, 高田聖果, 森岡典子, David Edvardsson, ラプレツィオーサ伸子, 緒方泰子. The Person-centered Care Assessment Tool (P-CAT) 日本語版の開発. 日本老年看護学会第24回学術集会 2019.06
11. 加瀬竜太郎, 田中裕二, 菅原久純, 齊藤大介, 大内明, 松島絵里奈, 萬弘子, 雨宮歩. 経験年数の違いによる看護師における勤務後の脱水状態と関連要因の検討. 第7回看護理工学会学術集会 2019.06 沖縄
12. 雨宮歩, 原田秋子, 加瀬竜太郎, 菅原久純. 静電容量センサによる点滴等自己抜去防止システムの開発. 第7回看護理工学会学術集会 2019.06 沖縄
13. 菅原久純, 雨宮歩, 加瀬竜太郎, 田中裕二, 小宮山政敏. 異なる睡眠段階で行う体位変換が生体に与える影響. 第7回看護理工学会学術集会 2019.06 沖縄
14. 菅原久純, 海野歩実, 雨宮歩, 田中裕二, 小宮山政敏. 健常成人におけるチェンブランケットの使用が睡眠に与える効果と最適な重量の検討. 日本睡眠学会第44回定期学術集会 2019.06 愛知
15. Yumi Iwamoto, Rumi Maeda, Keiko Okaya. INACSL Japan RIG Activity and the Establishment of Japanese Nursing Society for Simulation and Learning (JaNSSL). 2019.06.19 Phoenix, U.S.A.
16. 加瀬竜太郎, 田中裕二, 菅原久純, 齊藤大介, 大内明, 松島絵里奈, 萬弘子, 雨宮歩. 看護師における脱水状態と関連要因の検討. 第23回日本看護管理学会学術集会 2019.08 新潟
17. 菊池可南子, 菅原久純, 楊貴, 雨宮歩. 新人看護師を示すマークが患者の身体に及ぼす影響. 第23回日本看護管理学会学術集会 2019.08 新潟

18. 前田留美, 岩本由美, 岡谷恵子. 看護シミュレーション教育の動向についての文献検討. 第 29 回日本看護学教育学会学術集会 2019.08.03
19. 前田留美, 山下直美, 緒方泰子. 教育担当者の育成を目的とした看護師長からの支援を考える一部署別研修を企画・運営・評価するスタッフへの個別の支援一. 第 23 回日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟
20. 森岡典子, 森脇睦子, 緒方泰子. 大腿骨手術症例を対象とした看護配置と患者アウトカムの関連—DPC データを用いた後ろ向きコホート研究—. 第 23 回日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟
21. 木田亮平, 佐々木美奈子, 國江慶子, 堀込由紀, 米倉佑貴, 市川奈央子, 武村雪絵. 看護職員確保に向けた採用活動・就業支援制度と効果の実感に関する施設横断的実態調査. 第 23 回 日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟市
22. 田中慎吾, 武村雪絵, 國江慶子, 市川奈央子, 木田亮平. 急性期病棟の個室的多床室における病室の空間利用：看護師判断に基づく病棟内転床とベッド配置変更. 第 23 回 日本看護管理学会学術集会 2019.08.23
23. 長坂雄太, 市川奈央子, 武村雪絵, 國江慶子, 木田亮平. 上司—スタッフの相互理解を促す看護師（仲介看護師）の存在が所属部署に与える影響—師長への信頼感との関連の検証. 第 23 回 日本看護管理学会学術集会 2019.08.23
24. 石井馨子, 武村雪絵, 市川奈央子, 國江慶子, 木田亮平. 看護師長の変革型リーダーシップと部署の組織学習の関連—マルチレベル分析を用いた横断研究—. 第 23 回 日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟市
25. 甲斐貴雅, 市川奈央子, 武村雪絵, 國江慶子, 木田亮平. 看護職が患者に対する怒りの経験に伴い有するストレス症状とコーピング特性及びソーシャルサポートとの関連：横断研究. 第 23 回 日本看護管理学会学術集会 2019.08.23
26. 緒方泰子, 佐藤紀子, 武富貴久子, 佐藤可奈, 米倉佑貴, 湯本淑江, 森岡典子. 看護組織におけるマネジメント力育成に向けた協働学習の可能性～知識と経験の統合～. 第 23 回 日本看護管理学会学術集会 2019.08.23 新潟
27. 菅原久純, 雨宮歩, 田中裕二, 小宮山政敏. 褥瘡予防の為の健常者を対象とした姿勢変化の定量評価指標の検討. 千葉看護学会第 25 回学術集会 2019.09 千葉
28. 緒方泰子, 武富貴久子, 西岡みどり, 網中真由美, 武村雪絵, 長井聡子, 木田亮平, 森岡典子, 米倉佑貴, 菅田勝也. 看護職の Healthy Work Environment 特性の解明に向けた前向き研究（第 3 報）. 第 78 回日本公衆衛生学会総会 2019.10.25 高知
29. 前川紗莉, 湯本淑江, 高田聖果, 森岡典子, 緒方泰子. 施設入居認知症高齢者の食事に関連する困難を測る観察式ツールの比較検討. 第 57 回日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03 新潟
30. 木田亮平, 戸ヶ里泰典, 緒方泰子. 看護職が認識する部署の看護の質と人的資本（ヒューマン・キャピタル）および社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）との関連. 第 57 回 日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03 新潟市
31. 佐々木美奈子, 國江慶子, 木田亮平, 堀込由紀, 佐伯昌俊, 井上真帆, 米倉佑貴, 市川奈央子, 武村雪絵. 看護職員の採用方針に関する施設横断的実態調査. 第 57 回 日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03 新潟市
32. 井上真帆, 國江慶子, 武村雪絵. 市川奈央子, 木田亮平. 多面的な「知覚された個人-環境適合」を測定する日本語版適合間尺度の開発：看護職における信頼性と妥当性の検証. 第 57 回 日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03 新潟市
33. 緒方泰子, 佐藤紀子, 武富貴久子, 佐藤可奈, 米倉佑貴. 看護師長がマネジメントにおいて感じる 困難とその内容および精神的健康との関連. 第 57 回日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.03 新潟
34. 染谷京子, 森岡典子, 山崎育子, 渡辺潤子, 渡辺映子, 永田紀美子, 緒方泰子. 訪問看護同行訪問の経験による病棟看護師と訪問看護師の退院支援実践能力および地域多職種間の連携に与える影響. 第 57 回日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.04 新潟
35. 伊藤 絢乃, 森岡 典子, 佐々木 美樹, 藤波 景子, 湯本 淑江, 緒方 泰子. 看護師・医師関係に関連する看護師および病棟特性の検討. 第 57 回 日本医療・病院管理学会学術総会 2019.11.04 新潟
36. 木村八恵, 菅原久純, 雨宮歩, 田中裕二, 小宮山政敏. 褥瘡予防のための姿勢変化量の検討. 第 39 回日本看護科学学会学術集会 2019.11.30 金沢
37. 武村雪絵, 市川奈央子, 駒形万里絵, 船越千佳, 磯部環, 國江慶子, 木田亮平. 潜在看護師を含む看護職の免許取得後の就業状況. 第 39 回 日本看護科学学会学術集会 2019.12.01 石川

[Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD 教材 日本語版監修 (共著) 第1巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第2巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010年04月 - 現在

[受賞]

1. The Second Prize, 2nd Medical Big Data Analytics Conference in Japan (Datathon-Japan 2019) (太田), 2019年03月

[その他業績]

1. Reviewer, 2019年02月
AIMA 2019 Annual Symposium (AMIA: American Medical Informatics Association) to be held in Washington, D.C., United States from November 16 to 20, 2019. (太田)
2. Reviewer, 2019年03月
Japan Journal of Nursing Science, from Mar 2019 (太田)
3. 【寄稿】一般社団法人 日本看護系大学系協議会 今月の注目! 看護教員 「医療ビッグデータを用いた看護の可視化 ~政策につながる看護の見える化を目指して~」(森岡 典子), 2019年08月
日本看護系大学協議会ホームページ
<http://www.janpu.or.jp/staff/>
4. Reviewer, 2019年10月
Abstract Assessment Group for the 20th International Conference on Integrated Care (ICIC20) to be held in Croatia from April 27 to 29, 2020. (太田)

[社会貢献活動]

1. 公立大学法人首都大学東京非常勤講師 (緒方), 2007年04月01日 - 現在
2. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (湯本), 2014年03月 - 現在
3. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (藤波), 2014年03月14日 - 現在
4. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員 (前田), 2015年04月01日 - 現在
5. 日本看護評価学会学術集会 実行委員会委員 (佐々木), 日本看護評価学会, 2016年03月 - 現在
6. 日本看護評価学会誌編集委員会委員 (湯本), 2016年03月01日 - 現在
7. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員 (前田), 2016年08月01日 - 現在
8. 特定分野における保健師助産師看護師実習指導者講習会 実習指導案作成演習 (佐々木), 埼玉県看護協会, 2016年09月 - 2019年09月
9. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員 (前田), 2017年01月01日 - 現在
10. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師 (緒方), 藍野大学 キャリア開発・研究センター, 2018年04月01日 - 現在
11. 専門性の高い看護師による在宅・介護サービスへの訪問支援の有り方検討委員会委員 (緒方), 日本看護協会, 2018年08月20日 - 2019年03月31日
12. 社) 日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員 (前田), 2018年11月01日 - 現在
13. 第9回 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (木田), 2019年03月11日 - 2019年03月12日
14. 日本看護評価学会編集委員会委員 (緒方), 2019年04月01日 - 現在
15. 日本看護管理学会評議員 (緒方), 2019年04月01日 - 現在
16. 日本看護管理学会編集委員会委員 (緒方), 2019年04月01日 - 現在

17. 2019年度東京都ナースプラザ研修「看護管理の基本」ファシリテーター（木田），東京都ナースプラザ，東京都看護協会，2019年08月08日 - 2020年08月09日
18. 日本医療・病院管理学会評議員、理事（緒方）
19. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師（緒方）
20. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長（緒方）
21. 東京慈恵会医科大学非常勤講師（緒方）
22. 日本医療・病院管理学会事業委員会委員長（緒方）

共同災害看護学専攻

Cooperative Doctoral Course in Disaster Nursing

教授 佐々木 吉子
准教授 駒形 朋子
大学院生 (博士5年一貫制)
小川 裕美子
濱舘 陽子
田中 加苗
菅原 千賀子
宮前 繁
谷本 美保子
古屋 (友藤) 裕美
小曾根 京子
鴨田 玲子
鐘ヶ江 紗里
藤村 麻衣子

(1) 分野概要

共同災害看護学専攻は、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学で共同運営する5年一貫制博士課程である。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる「災害看護グローバルリーダー」を養成することを目標としている。本学共同災害看護学専攻では、主に大規模災害発生時の防災・減災に向けた備えと発災急性期における看護の役割に着目して、学内はもとより地域住民、行政、医師会、企業等と連携した大災害への備えをテーマに研究活動を展開している。

(2) 研究活動

「共同災害看護学専攻」では、首都圏直下型大地震やテロによる特殊災害に備えた防災・減災に着目し、発災に向けた平時からの備えと、発災急性期の災害支援活動における看護の役割の確立を目指し、研究に取り組んでいる。

現在、当研究室では、研究の一環として以下のような活動をしている。

- ①過去の大地震や特殊災害についての事例分析
- ②大災害時の防災・減災に向けた国内外の取り組み状況の把握 (海外文献の抄読、国内・国際学会、海外での災害研修への参加)
- ③大災害発生時の自助・共助強化のための産官学連携に向けた情報収集や関係作り
- ④大学が属する2次医療圏内の災害拠点病院の取り組みについての情報収集 (関連会議への参加、災害訓練参加など)
- ⑤大学が属する2次医療圏内の小規模医療施設における防災・減災の取り組み状況についての基礎調査
- ⑥災害時の医療系大学の学生ボランティアの活用とサポートに関するシステム構築に向けた基礎調査 (他専攻との共同研究)
- ⑦大災害被災者へのメンタルケアに関する情報収集やスキルの学習
- ⑧特殊災害において医療者に必要な基礎知識・スキルの学習 (緊急被ばく医療者現職者研修への参加など)

現在は基盤形成のための情報収集や基礎研究が中心であるが、今後、上記研究を発展させるとともに、院生が関心のある領域での研究に取り組めるようフィールド開拓するなど、関連機関との連携を図りながら研究室一丸となって取り組んでいる。

(3) 教育活動

「共同災害看護学専攻」は共同教育課程であり、学生はそれぞれの大学で開講される教科を相互履修し、各大学が強みとしている領域についての学習を深めている。

本学当専攻は、災害関連科目として「災害看護活動論Ⅰ」および「災害看護活動論演習Ⅰ」を担当している。災害看護活動論では、主に災害医療についての概論、災害急性期における看護実践や多職種との連携について学び、看護リーダーの役割について考察する。災害看護活動論演習Ⅰでは、国内外の災害医療・看護に関する文献講読とディスカッション、救護活動や遺族ケアなどのシミュレーション、災害専門施設の視察等を通して、実践力の向上や後方支援を含む看護リーダー能力の育成を図っている。

(4) 教育方針

将来、世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的・国際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして、高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育・研究者を養成することを目標としている。

授業は、LMS (Learnig Management System) による事前課題の提示や提出、講義資料の配信によって事前事後学習の効率化をはかり、また、TV 会議システムを使用しての遠隔講義、高性能シミュレーターや SimView を使用した遠隔シミュレーション演習など、IT の活用により複数の拠点から受講できるように工夫している。

研究指導については、5大学の教員による複数指導大切を敷いており、学生は自身の研究テーマに応じて、対面および遠隔システムを利用して充実した指導を受けることができるようになっている。

(5) 臨床活動および学外活動

様々な災害へ対応できる能力を養うため、先駆的に被ばく医療の教育・研究に携わっている弘前大学等との大学間の交流や、他の博士課程リーディングプログラムの大学等との交流をはかり、また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、国会見学などのインターンシップ、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。また国際学会・国内学会に積極的に参加し、学会発表や、他国の研究者・学生との英語による交流会も積極的に企画・参加しグローバルな視点を養うための工夫を詰めている。

(6) 研究業績

[原著]

1. 濱舘陽子, 佐々木吉子, 三浦英恵. 東京都千代田区の企業の災害対策の実状と課題 産業衛生学雑誌. 2019; 61(3); 95-107
2. 辻村 真由子, 駒形 朋子. 米国で開発された看護系大学教員育成チェックリストの日本での適用に向けた精練の試み 千葉大学大学院看護学研究科紀要. 2019.03; (41); 57-65

[書籍等出版物]

1. 佐々木吉子. 第5章 尊重の欲求とケア (古賀雄二, 深谷智恵子編. 日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護). 中央法規, 2019.07 (ISBN : 978-4-8058-5910-0)

[総説]

1. 辻村真由子, 駒形朋子. 米国の看護系大学教員育成チェックリストの日本での適用に向けた精練の試み 千葉大学大学院看護学研究科紀要 . 2019.03; (41);

2. Megumi ARISAKA , Maki NAKAJIMA , Chikako SUGAWARA , Yuki TAKAMURA , Yukimi CHO , Mayumi KISHINO and Asuka MUROYA. Information exchange to strengthen disaster nursing collaboration: Sharing information about various roles and activities during disaster nursing in Japan Health Emergency and Disaster Nursing. 2019.03; 6; 62-63
3. 西川 愛海, 藤田 さやか, 稲垣 真梨奈, 松尾 香織, 宮前 繁, 村田 美穂. 東日本大震災以降の災害時期別における看護活動 Phenomena in Nursing. 2019.03; 2(1); G1-G15

[講演・口頭発表等]

1. 菅原千賀子. TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム. 2019.03.03
2. TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム.. 2019.03.03
3. 小曾根京子, 佐々木吉子. 都市部で高齢化率が高い公営団地自治会における災害に対する準備性. 日本災害看護学会第 21 回年次大会 2019.09.06 北見市
4. 陣立良太, 小曾根京子, 川上勝. 携帯ラジオと FM トランスミッターを利用した新たな情報伝達の検討—避難所での継続的情報伝達を視野に入れた簡易放送局の設置—. 日本災害看護学会第 21 回年次大会 2019.09.06 北見市
5. Tomoko Komagata. What is new for us? Understanding cultural context for better collaboration. Pak-Japan Research Forum 2019.09.08 在日パキスタン大使館、東京
6. 佐々木吉子. 採用される臨床看護研究の論文を書くための Tips. 第 21 回日本救急看護学会学術集会 2019.10.05 千葉市
7. 鴨田玲子, 駒形朋子, 佐々木吉子. ネパール・ポカラ市周辺における Female Community Healthcare Volunteer (FCHV) の活動実態：災害時対応可能性の検討. 2019.11.01 長崎県長崎市

[その他業績]

1. 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2019 「私は世界をこう変える」(鐘ヶ江紗里) , 2019 年 11 月
「SDGs1 貧困をなくそう」に対し、シエラレオネ共和国を例に携帯電話を活用した適性市場価格の構築を計画した。貧困問題に対するアプローチから波及解決が期待される雇用、医療、教育について討議を実施した。

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援 (佐々木吉子) , 2005 年 10 月 - 現在
2. 慶應義塾大学看護医療学部非常勤講師 (佐々木吉子) , 2008 年 04 月 - 現在
3. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース (佐々木吉子) , 日本看護協会, 2010 年 - 現在
4. 博士課程教育リーディングプログラム 災害看護グローバルリーダー養成プログラム プログラム担当者 (佐々木吉子) , 2013 年 - 2019 年 03 月 31 日
5. 株式会社アジア共同設計コンサルタントへの技術協力 (駒形朋子、宮前繁、谷本美保子、古屋裕美、小曾根京子) , 2017 年 12 月 25 日 - 現在
6. 平成 30 年度福島県原子力防災訓練等企画・運営支援及び評価業務 評価員 (佐々木吉子) , 福島県, いわき市, 2019 年 01 月 25 日 - 2019 年 01 月 26 日
7. 四ツ谷駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力会での机上訓練の実施 (小川裕美子、濱館陽子、菅原千賀子、宮前繁、古屋裕美、鐘ヶ江紗里、藤村麻衣子) : 「発災 3 日目一時滞在施設における帰宅困難者対応ゲーム」, 四ツ谷駅周辺, 2019 年 02 月 13 日
8. 東京駅周辺防災隣組第 84 回総会での机上訓練の実施 (濱館陽子、小曾根京子) : 「一時滞在施設における帰宅困難者の掌握方法の具体的検討」, 東京駅周辺, 2019 年 02 月 20 日
9. 平成 30 年度千代田区帰宅困難者対応訓練参加 (濱館陽子、菅原千賀子、宮前繁、鐘ヶ江紗里) , 東京駅周辺, 2019 年 03 月 08 日
10. 岡山県川崎医科大学附属病院 「第 8 回岡 BDLS 岡山コース」 事務局 (藤村麻衣子) , 2019 年 03 月 10 日

11. 小規模多機能なかよし講習会 逃げたら終わりじゃない！災害時の避難生活を乗り越えるための備え（佐々木吉子・小曾根京子）、小規模多機能なかよし（横須賀市）、2019年03月11日
12. かもめ団地防災講習会 始めよう！すぐできること（小曾根京子）、かもめ団地（横須賀市）、2019年03月28日
13. 国際緊急援助隊 周産期・小児課題検討会（MNCH 課題検討会）（谷本美保子）、2019年04月01日 - 2020年03月31日
14. モザンビークにおけるサイクロン被害に対する国際緊急援助隊 医療チーム派遣（小曾根京子）、独立行政法人 国際協力機構 JICA, モザンビーク, 2019年04月05日 - 2019年04月18日
15. ミャンマー避難民人道支援プログラム（菅原千賀子）、日本インターナショナル・サポート・プログラム, 2019年05月01日 - 2019年10月31日
16. エベレストインターナショナルスクールでのボランティア活動（駒形朋子）、2019年05月01日 - 2020年03月31日
17. 金沢大学附属病院「第6回BDLS金沢コース」事務局（藤村麻衣子）、2019年05月18日
18. 第92回日本産業衛生学会（古屋 裕美）、名古屋国際会議場, 2019年05月23日 - 2019年05月25日
19. いわき市復興支援ボランティア活動の実施（鐘ヶ江紗里）、2019年06月28日 - 2019年06月30日
20. かもめ団地第二回災害講習会 災害支援の現場から一水&トイレ編（小曾根京子）、かもめ団地（横須賀市）、2019年07月04日
21. 東京医科歯科大学「第9回ADLSプロバイダーコース」事務局（藤村麻衣子）、2019年07月13日 - 2019年07月14日
22. APRU-AEARU Multi-Hazards Summer School 2019（東北大学災害科学国際研究所主催）運営支援（鐘ヶ江紗里）、2019年07月26日 - 2019年07月29日
23. 第2回埼玉BHELP標準コースにおけるインストラクター（小川裕美子）、日本災害医学会, 第2回BHELP標準コース, さいたま市民医療センター, 2019年08月25日
24. 令和元年度東京駅周辺防災隣組・千代田区医師会・三菱地所株式会社との医療連携訓練への参加（濱館陽子）、東京駅周辺, 2019年08月30日
25. 令和元年度大規模地震時医療活動訓練（宮前繁）、内閣府, 東京都都庁, 2019年09月07日
26. 第29回日本産業衛生学会全国協議会（古屋 裕美）、仙台国際センター, 2019年09月12日 - 2019年09月14日
27. 文京学院大学 非常勤講師（小川裕美子）、文京学院大学, 災害看護学（1年次、4年次）、文京学院大学 本郷キャンパス, 2019年09月26日 - 2019年11月02日
28. 文京学院大学 非常勤講師, 文京学院大学, 災害看護学（1年次、4年次）、文京学院大学 本郷キャンパス, 2019年09月27日 - 2019年11月02日
29. グループホームいずみ運営委員会講演 災害時の避難行動と避難生活を乗り切るためにできること（佐々木吉子）、グループホームいずみ運営委員会, 2019年09月28日
30. 第18回千里メディカルラリー海外チームサポートスタッフ（宮前繁）、社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院, 第18回千里メディカルラリー, 大阪府吹田市エキスポシティ周辺, 2019年09月28日
31. 東京医科歯科大学第69回医科歯科ICLS インストラクター（藤村麻衣子）、2019年09月29日
32. 横浜市災害支援ナース登録推進研修 災害看護～災害医療における看護職の役割～（佐々木吉子）、横浜市, 横浜市災害支援ナース登録推進研修, 神奈川県総合医療会館, 2019年10月27日
33. 令和元年台風19号被災者緊急支援活動（小曾根京子）、認定特定非営利活動法人 AMDA, 長野県, 2019年11月01日 - 2019年11月03日
34. 東京医科歯科大学医学部附属病院 災害訓練への参加（新設エリアにおけるファシリテーター、評価者）（藤村麻衣子）、東京医科歯科大学医学部附属病院 災害対策委員会, 2019年11月02日

11. 小規模多機能なかよし講習会 逃げたら終わりじゃない！災害時の避難生活を乗り越えるための備え（佐々木吉子・小曾根京子）、小規模多機能なかよし（横須賀市）、2019年03月11日
12. かもめ団地防災講習会 始めよう！すぐできること（小曾根京子）、かもめ団地（横須賀市）、2019年03月28日
13. 国際緊急援助隊 周産期・小児課題検討会（MNCH 課題検討会）（谷本美保子）、2019年04月01日 - 2020年03月31日
14. モザンビークにおけるサイクロン被害に対する国際緊急援助隊 医療チーム派遣（小曾根京子）、独立行政法人 国際協力機構 JICA, モザンビーク, 2019年04月05日 - 2019年04月18日
15. ミャンマー避難民人道支援プログラム（菅原千賀子）、日本インターナショナル・サポート・プログラム, 2019年05月01日 - 2019年10月31日
16. エベレストインターナショナルスクールでのボランティア活動（駒形朋子）、2019年05月01日 - 2020年03月31日
17. 金沢大学附属病院「第6回 BDLS 金沢コース」事務局（藤村麻衣子）、2019年05月18日
18. 第92回日本産業衛生学会（古屋 裕美）、名古屋国際会議場, 2019年05月23日 - 2019年05月25日
19. いわき市復興支援ボランティア活動の実施（鐘ヶ江紗里）、2019年06月28日 - 2019年06月30日
20. かもめ団地第二回災害講習会 災害支援の現場から一水&トイレ編（小曾根京子）、かもめ団地（横須賀市）、2019年07月04日
21. 東京医科歯科大学「第9回 ADLS プロバイダーコース」事務局（藤村麻衣子）、2019年07月13日 - 2019年07月14日
22. APRU-AEARU Multi-Hazards Summer School 2019（東北大学災害科学国際研究所主催）運営支援（鐘ヶ江紗里）、2019年07月26日 - 2019年07月29日
23. 第2回埼玉 BHELP 標準コースにおけるインストラクター（小川裕美子）、日本災害医学会, 第2回 BHELP 標準コース, さいたま市民医療センター, 2019年08月25日
24. 令和元年度東京駅周辺防災隣組・千代田区医師会・三菱地所株式会社との医療連携訓練への参加（濱館陽子）、東京駅周辺, 2019年08月30日
25. 令和元年度大規模地震時医療活動訓練（宮前繁）、内閣府, 東京都都庁, 2019年09月07日
26. 第29回日本産業衛生学会全国協議会（古屋 裕美）、仙台国際センター, 2019年09月12日 - 2019年09月14日
27. 文京学院大学 非常勤講師（小川裕美子）、文京学院大学, 災害看護学（1年次、4年次）、文京学院大学 本郷キャンパス, 2019年09月26日 - 2019年11月02日
28. 文京学院大学 非常勤講師, 文京学院大学, 災害看護学（1年次、4年次）、文京学院大学 本郷キャンパス, 2019年09月27日 - 2019年11月02日
29. グループホームいずみ運営委員会講演 災害時の避難行動と避難生活を乗り切るためにできること（佐々木吉子）、グループホームいずみ運営委員会, 2019年09月28日
30. 第18回千里メディカルラリー海外チームサポートスタッフ（宮前繁）、社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院, 第18回千里メディカルラリー, 大阪府吹田市エキスポシティ周辺, 2019年09月28日
31. 東京医科歯科大学第69回医科歯科 ICLS インストラクター（藤村麻衣子）、2019年09月29日
32. 横浜市災害支援ナース登録推進研修 災害看護～災害医療における看護職の役割～（佐々木吉子）、横浜市, 横浜市災害支援ナース登録推進研修, 神奈川県総合医療会館, 2019年10月27日
33. 令和元年台風19号被災者緊急支援活動（小曾根京子）、認定特定非営利活動法人 AMDA, 長野県, 2019年11月01日 - 2019年11月03日
34. 東京医科歯科大学医学部附属病院 災害訓練への参加（新設エリアにおけるファシリテーター、評価者）（藤村麻衣子）、東京医科歯科大学医学部附属病院 災害対策委員会, 2019年11月02日

Ⅲ.2019 年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覽表

2019年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士（看護学）54名

	氏名	論文題目
1	鈴木比那	行動嗜癖への看護～買い物嗜癖から考えて～
2	田邊真美子	流産・死産を経験した父親に関する文献検討
3	年友夏海	母乳育児支援における児に対する介入について
4	山本祭	ひとり親家庭で育った経験～解釈学的現象学のアプローチに基づいて～
5	野中美里	「気になる」子どもの早期発見・早期支援への取り組みに伴う保育所看護師の困難の実際
6	半田優香	摂食障害をもつ思春期の生徒に対する養護教諭の支援
7	篠田樹乃	がんに罹患した親をもつ子どもへの看護師による支援
8	山内瑚舞子	心臓病をもつ子どものための保育グループに通う乳幼児の母親が抱く思い——入園前後の思いの変化に注目して——
9	伊藤帆海	看護師が行う学童期の長期入院児への意思決定支援
10	江口ひかる	NDBオープンデータを用いたリンパ浮腫ケア提供の都道府県間比較
11	寺澤春佳	新人看護師の不安と困難に関する文献検討
12	徳家あかり	職場における腰痛予防対策指針改定後の病棟看護師の腰痛に関する文献検討 ～腰痛の実態・要因・予防対策～
13	仲西祐奈	患者の心に残る看護師の関わり
14	山元英理佳	諸外国におけるテレナーシングの方法と介入効果に関する文献検討
15	若林南奈	10代妊婦の背景および妊娠期の実態と支援に関する文献検討—2006年から2019年の国内文献の調査から—
16	川野辺由美	日本の慢性疾患患者への遠隔看護の現状に関する文献検討
17	遠山友理乃	ER-ICUで働く経験の浅い看護師が家族ケアの中で抱く困難感に関するインタビュー調査
18	加納史織	終末期にある患者とその家族の意思表示を促す看護支援に関する文献検討
19	長妻茉里枝	遷延性意識障害患者の意識障害回復に効果的な介入に関する文献検討
20	松井萌香	転倒リスクアセスメントツール使用後の転倒予防策に関する文献検討
21	吉田恵理子	集中治療領域における熟練看護師の離床中止判断と支援に関するインタビュー調査～主観的評価を伴う指標に着目して～
22	志村朋美	子育て中や育児希望のある乳がん患者とその家族の体験・認識に関する文献レビュー
23	松浦美優子	関節の手術後において疼痛を感じている患者への効果的な看護に関する文献レビュー
24	香嶋成美	認知症患者へのケアに関する研修を通じた病院看護師の意識・行動の変化
25	寺島遥香	人生最終段階におけるケア(看取り)に対するグループホーム職員の創意工夫・困難感
26	時原ともみ	嚥下機能の低下が認められるグループホーム入居者が食事を楽しむためのケア
27	羽鳥すみれ	認知症高齢者の自己摂食(Self-feeding)を促進するためのケアに関する文献レビュー
28	山崎あかり	The Person-centered Care Assessment Tool(P-CAT)日本語版の信頼性・妥当性の検討
29	奥原美穂香	Stress in nurses—a literature review of the last ten years—
30	加藤佑季	看護師の認識する他職種とのコミュニケーションにおけるリスク要因-患者に不利益を生じた事例を通して-

	氏名	論文題目
31	成 希 萌	結婚・育児と就業継続に関する看護学生の認識
32	松 岡 亜 紀 子	無痛分娩を選択した女性の出産体験に関する文献検討
33	発 知 こ こ ろ	若年成人期におけるがん患者の就労の現状と看護師のできる関わりについて
34	北 原 綾 乃	がんで家族を亡くした遺族の後悔に関する文献検討
35	小 池 有 香	小中学校におけるがん教育の現状と課題
36	古 川 瑞 帆	がん患者と、その家族のがん罹患から亡くなるまでの思いを理解する～本人と家族の経験が書かれた手記を通じて～
37	中 鉢 風 咲	在宅療養児の家族が出生からその家族なりのペースをつくるまでの心理的変化に関する文献検討
38	早 川 真 由	在宅や施設での看取り 看護師のケアとその効果に関する文献検討
39	山 田 舞	退院後の日常生活におけるオストメイトへの支援について～文献検討による考察～
40	若 林 咲 希	在宅療養移行をする選択した終末期がん患者の抱える不安と看護支援について
41	田 中 美 帆	ギャンブル障害を有する人の性格傾向についての文献検討
42	横 山 佳 代	精神障害の親を持つヤングケアラーについての文献検討
43	小 谷 愛	Challenges faced by care providers when working with foreign clients in a home care environment, a literature review
44	足 立 真 里 亜	異文化間感受性能力の要因及び海外留学支援に関して
45	赤 羽 和	病院のJCI (Joint Commission International) 認証取得への取り組みに対する職員の意識についての文献検討
46	伏 見 和 香 奈	十代のメンタルヘルスに対する学校での看護師・保健師の取り組みと課題に関する文献検討
47	野 口 麻 衣	看護学生を対象とした英語学習へのモチベーションとニーズの経年変化
48	大 橋 美 桜	医療系学生の子宮頸がん予防行動の実態とその要因
49	野 村 真 梨 花	看護大学生のアルバイト実施状況と勉強・睡眠・身体症状・日常生活スキル尺度との関連
50	八 木 咲 樹	医療系学生の低用量ピルに対する知識・意識と健康教育後の変化
51	若林沙羅佳奈子	臨地実習での看護過程の展開における学生の気付きと課題
52	小野寺 春香	1歳6か月児健診で虐待防止に関する継続支援を行う必要があると保健師が判断した母子の特徴と支援
53	糸 田 麻 美	訪問看護師における自転車での訪問中の事故とヒヤリ・ハットの状況
54	河 田 美 幸	一人暮らし高齢者の一般介護予防事業への参加を促すための看護者の活動

IV. 2019 年度大学院保健衛生学研究科博士課程

課題研究題目一覧表

2019年度大学院保健衛生学研究科博士（前期・後期）課程学位論文一覧表

○修士（看護学）7名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	坂野 朋未	看護先進科学専攻	福井 小紀子	家族事例検討が訪問看護師にもたらす家族看護実践の変化	大久保 功子	緒方 泰子	内堀 真弓
2	角田 紘子	看護先進科学専攻	森田 久美子	学校におけるがん予防教育に関する文献的考察	田中 真琴	岡光 基子	山崎 智子
3	蘆田 薫	看護先進科学専攻	田中 真琴	集中治療領域に従事する看護師の倫理的信念と実践に関する全国調査	近藤 暁子	佐々木 明子	矢郷 哲志
4	ABULIEZI RENAGULI	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Experiences and current situation of Economic Partnership Agreement nurse/ nurse candidates in Japan: a systematic review (日本における経済連携協定の看護師/看護師候補者の経験と現状: システマティックレビュー)	緒方 泰子	田中 真琴	駒形 朋子
5	木村 佳菜	看護先進科学専攻	佐々木 明子	地域で生活する精神障害者の被害に関する文献検討	近藤 暁子	高野 歩	岡光 基子
6	木村 光佑	看護先進科学専攻	佐々木 明子	看護師が関わる非がんの在宅療養高齢者とその家族に対するアドバンスケアプランニングに関する文献レビュー	柏木 聖代	森田 久美子	佐藤 可奈
7	今村 美聡	看護先進科学専攻	大久保 功子	産後の母親のイライラに関する研究	佐々木 吉子	森田 久美子	矢郷 哲志

課程博士

○博士（看護学）8名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	永嶺 仁美	看護先進科学 (地域健康増進看護学)	森田 久美子	Implementation and evaluation of a primary diabetes prevention programme for young adult employees in Japan: A non-randomized controlled trial	緒方 泰子	柏木 聖代	川上 明希
2	佐々木 美樹	看護先進科学 (高齢社会看護ケア開発学)	緒方 泰子	Development and validation of nurse managers' empowering behavioral scale for staff nurses	田中 真琴	佐々木 吉子	森田 久美子
3	前田 耕助	総合保健看護学 (生体・生活機能看護学分野)	柏木 聖代	Effects of warm footbath on cerebral activity in the prefrontal cortex	緒方 泰子	柏木 聖代	伊藤 南
4	石塚 紀美	総合保健看護学 (先端侵襲緩和ケア看護学分野)	田中 真琴	救命救急センターICUにおいて患者のDNAR(Do Not Attempt Resuscitation)を決断した家族の体験に関する研究	佐々木 吉子	田中 真琴	佐藤 可奈
5	野村 智実	看護先進科学 (小児・家族発達看護学分野)	岡光 基子	Characteristics of Parents and Their Infants with Autistic Behaviors: Parent-Infant Interaction, Parental Depression, and Parenting Stress	大久保 功子	田中 真琴	森田 久美子
6	那須 佳津美	看護先進科学 (看護システムマネジメント学分野)	佐藤 可奈	Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings	田中 真琴	佐々木 明子	山崎 智子
7	板井 麻衣	看護先進科学 (地域保健看護学分野)	佐々木 明子	The Changing Process of Women's Smoking Status Triggered by Pregnancy	大久保 功子	柏木 聖代	岡光 基子
8	奥村 朱美	看護先進科学 (看護システムマネジメント学分野)	佐藤 可奈	Effect of an End-of-Life Gerontological Nursing Education Program on the Attitudes and Knowledge of Clinical Nurses: A Non-Randomized Controlled Trial	柏木 聖代	緒方 泰子	川上 明希

課程博士

○博士（看護学）3名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	小川 裕美子	共同災害看護学	佐々木 吉子	災害時に拠点となる医療機関において CBRNE 災害対応に携わる看護師の学習意欲を高める教育プログラムの開発	佐々木 吉子 (東京医科歯科大学)	井瀧 千恵子 (弘前大学) 森尾 郁子 (東京医科歯科大学)	増野 園恵 (兵庫県立大学) 佐藤 奈保 (千葉大学)
2	濱館 陽子	共同災害看護学	佐々木 吉子	企業が災害時に備えて帰宅困難者 対策を推進するためのアクションリサーチ	佐々木 吉子 (東京医科歯科大学)	江川 新一 (東北大学) 深堀 浩樹 (慶応義塾大学)	宮崎 美砂子 (千葉大学) 神原 咲子 (高知県立大学)
3	宮前 繁	共同災害看護学	佐々木 吉子	災害拠点病院における対策活動を促進するアクションリサーチ	佐々木 吉子 (東京医科歯科大学)	大友 康裕 (東京医科歯科大学) 酒井 郁子 (千葉大学)	増野 園恵 (兵庫県立大学) 田村 由美 (日本赤十字看護大学)

V. 委員会委員名簿

〔大学院〕		〔学部〕	
保健衛生学研究科長	: 大久保	保健衛生学科長	: 窪田
大学院教育委員会委員長	: 田中	学部教育委員会委員長	: 沢辺
看護先進科学専攻長	: 緒方	看護学専攻主任	: 佐々木(明)
生体検査科学系教授会議長	: 窪田	検査技術学専攻主任	: 角
共同災害看護学専攻長	: 佐々木(吉)		

〔大学院教育委員会〕		☆田中、佐々木(吉)、大久保、山崎	
〔学部教育委員会〕		☆沢辺、佐々木(明)、緒方、森田、角、星 (大久保、窪田)	
〔国際教育・研究センター〕	【看】	○佐々木(明)、近藤、駒形、津田、高野	
	【検】	☆沢辺、笹野、鈴木、齋藤	
〔海外学生交流受入 WG〕	【検】	☆沢辺、笹野、鈴木、副島、馬淵、須藤、大橋	
〔専門看護師検討 WG〕	【看】	☆佐々木(吉)、田中、緒方、大久保、柏木、山崎、岡光、川上、高野	
〔歯学融合教育委員会〕	【看】	佐藤(科目担当)、廣山	
	【検】	角、大川、西尾 [「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 齋藤、藤代]	
〔スキルス・ラボ検討委員会〕	【看】	担当者なし	
	【検】	角	
〔学部カリキュラム委員会〕	【看】	☆柏木、近藤、森田、岡光、川上、佐藤、佐々木(明)	
	【検】	☆角、沢辺、窪田	
〔実習・臨地実習担当委員会〕	【看】	☆岡光、○内堀、○廣山、森田、山崎、佐藤、高野、三隅、川上、大河原、津田川本、矢郷、湯本、森岡、遠藤、栗林、藤波、菅原	
	【検】	☆角、沢辺、齋藤、西尾、大川、大橋、副島、赤座	
〔インターンシップ委員会〕	【検】	☆伊藤、齋藤、馬淵、副島	
〔卒業研究委員会〕	【看】	☆佐藤、内堀、大河原、津田	
	【検】	☆星、鈴木、本間、馬淵、赤座、藤代	
〔進路指導委員会〕	【看】	☆近藤、内堀、大河原、津田	
	【検】	☆沢辺、大川、齋藤、本間、副島、藤代	
〔国試対策委員会〕	【看】	☆近藤、矢郷	
	【検】	〔模試担当〕 ☆西尾、本間 (試験当日は全分野の助教)	
〔図書・広報委員〕	【看】	☆川上	
	【検】	☆星、角、大川、西尾、大橋	
〔学級担当委員〕		【看】	【検】
・1年生(31回生)		柏木、廣山	鈴木
・2年生(30回生)		森田、矢郷	齋藤
・3年生(29回生)		田中、大河原	伊藤
・4年生(28回生)		近藤、内堀	赤澤
〔試験監督調整委員〕		川本	角
〔親睦会・会計〕		☆近藤、駒形、三隅、廣山	☆伊藤、馬淵、赤座、須藤
〔保健衛生学科FD実行委員会〕		☆佐々木(明)、大久保、川上	☆伊藤
〔LAN・ホームページ担当 WG〕		☆大河原、森岡	☆角、大川、西尾、大橋、副島、本間、馬淵
〔自己点検・評価小委員会〕	【看】	☆柏木、山崎、川上、湯本、栗林、矢郷、森岡	
	【検】	☆窪田、沢辺、角、笹野	
〔競争的資金獲得検討委員会〕	【看】	☆大久保、佐々木(明)、緒方、佐々木(吉)、近藤、田中、柏木	
〔生体検査科学セミナー〕	【検】	☆伊藤、鈴木、馬淵、藤代	
〔オープンキャンパス・受験生対策 WG〕	【看】	☆岡光、山崎、矢郷、津田、森岡、大河原(オープンキャンパス当日は全分野の助教)	
	【検】	☆角、沢辺、笹野、西尾、本間、赤座、須藤、大橋	
〔看護部(医)保健衛生学科連携〕	【看】	☆大久保、柏木、岡光	
〔歯学附属病院研究支援〕	【看】	☆岡光、近藤、佐藤	
〔将来構想委員会〕	【検】	☆窪田、沢辺、笹野、齋藤	

- ・1年生保護者会は新学年担当と新専攻主任が対応する。
- ・総合実習Ⅱは時限 WG のため、解消し、実習委員会の中で対応する。

VI. 就職状況一覧表（2020年3月卒業・修了者）

就職状況一覧表

2020.5.1現在

(看護先進看護学・総合保健看護学・共同災害看護学)

区分		学部 (看護学)		大学院			
		小計	合計	博士(前期)課程		博士課程 博士(後期)課程	
				小計	合計	小計	合計
進学	本学	1	5			0	0
	本学以外	4				0	
就職	看護師	本学	31	46		0	10
		本学以外	14			3	
	保健師		1			0	
	助産師					0	
	助教(大学機関)					6	
	助手(大学機関)					0	
	講師(大学機関)					0	
	その他					1	
	その他(不明)		3(進路未定)				
合計		54				11	

東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科年報

2019年度

保健衛生学研究科教育委員

佐々木 明 子 委員長

戸 塚 実

齋 藤 やよい

本 田 彰 子

窪 田 哲 朗

伊 藤 南

佐々木 吉 子

発 行
編集・発行

2021年3月

東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

<http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html>